

## アメリカの社会と文化

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

This course is designed to assist students in learning about American society and culture and America's influence in the world. Extensive use will be made of audio visual materials depicting various aspects of American life.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction	17	Exam III
2	Intro to American Society & Culture	18	The Dominant Culture in America
3	American Geography	19	Minority Cultures in America
4	Exam I Map Quiz	20	Challenges to the Dominant Culture
5	The Native People of America	21	Malcolm X
6	Pocahontas	22	Slavery in American
7	Europeans Arrive	23	Amistad
8	Dances with Wolves	24	African American Society and Culture
9	American Expansion on the Continent	25	Exam IV
10	American Expansion on the Continent	26	American Religious Culture
11	Exam II	27	30 Days with American Muslims
12	American Expansion around the World	28	Gay Society and Culture in America
13	American Expansion around the World	29	30 Days in the Castro
14	Born on the Fourth of July	30	American Car Culture
15	American Military Culture and Guns	31	Exam V
16	Bowling for Columbine		

### 【履修上の注意事項】

Students should note that this class will be conducted primarily in English.

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, class participation and written exams. The written exams will consist of comprehension questions based on the textbook and essays based on issues discussed in class, from the textbook and from films. Missing one exam will not affect your grade.

### 【テキスト】

The text for this class will be available from the instructor.

### 【参考文献】

## アメリカ文学史

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

アメリカ文学の流れを概観し、主要作家の作品を鑑賞する。植民地時代・独立戦争時の歴史背景から始め、19世紀、特にアメリカン・ルネサンス期の作家・作品の講読を通して、「アメリカの良質な知的財産」に触れ、その理解を図る。

### 【授業の展開計画】

授業では、テキストの中の作家についての説明文と作品（詩や散文など）を英語の原文で読み進む。また、ビデオ鑑賞（長編小説など）を適宜取り入れることもある。個人指名による質問形式をとるので、必ず予習をしておくこと。授業での質問に対して、ある回数以上答えられない者には、単位を与えない。

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

中間・期末試験：各45%、授業中の指名に対する応答や発言：10%

### 【テキスト】

プリント教材を使用する。

### 【参考文献】

横沢四郎他『概説アメリカ文学史』金星堂、1981年  
その他、適宜紹介する。

## イギリスの社会と文化

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

This class is intended to give students an opportunity to explore contemporary issues in British culture and society and reflect upon their relevance to contemporary societies elsewhere, particularly Okinawa and Japan.

### 【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.

A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.

### 【履修上の注意事項】

\* For scheduling reasons, I would like to advise students who are taking this class not to register for 英語圏社会文化特殊講義.

\* Communication of ideas will take precedence over medium of communication.

### 【評価方法】

Assessment will be based on the following:

\* assignments relating to course content

\* attendance and participation

### 【テキスト】

No textbook is prescribed for this course.

### 【参考文献】

# イギリス文学史

担当教員 山本 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この講座は、イギリス文学史上の重要な作家や作品を概観しながら、文学作品の背景にあるイギリスの社会や歴史についての知識を深め、文学史の流れを掴むことを目的とする。

## 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週

- \*下記の項目に沿ってイギリス文学史を学ぶ。
- \*下記の項目について、受講者にグループで発表してもらう。
- \*文学作品の読解や映画鑑賞を取り入れ、重要な作家や作品について詳しく学ぶ。

1. 古英語・中英語の文学
2. ルネサンスの散文と詩
3. 演劇が起こる
4. シェイクスピア
5. 清教徒革命まで
6. 王政回復期
7. 18世紀の散文、詩、劇

第8週 中間テスト

第9週～15週

8. 小説の誕生、そして成長
9. ロマン主義時代
10. ヴィクトリア朝期の詩と散文
11. ヴィクトリア朝の小説
12. 第二次大戦までの小説
13. 第二次大戦までの詩と劇
14. 戦後の文学

第16週 期末テスト

## 【履修上の注意事項】

- ①欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにする。
- ②遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
- ③授業にはテキストと英和辞典を持参する。

## 【評価方法】

出席・授業参加10%、発表10%、中間テスト40%、期末テスト40%、

## 【テキスト】

川崎寿彦『イギリス文学史』成美堂

## 【参考文献】

参考文献は授業中に紹介する。

## 異文化理解 I

担当教員 李 イニッド

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活や文化などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	異文化ってなに？
2	外国人が感じる日本の「ふしぎ」
3	英語で遊ぼう
4	ネイティブスピーカーの知らない英語
5	知っておきたい英語の知識
6	異文化の共通点・相違点を探そう！（1）
7	” （2）
8	常識から非常識へ
9	映画鑑賞：外国人のユーモア
10	学生発表・評価（1）
11	” （2）
12	” （3）
13	” （4）
14	” （5）
15	” （6）
16	” （7）

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

出席率及び授業参加態度（50%）、プロジェクト及び口頭発表（50%）により総合的に評価します。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

## 異文化理解Ⅱ

担当教員 李 イニッド

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

前期の「異文化理解Ⅰ」に続き、本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	英語の「構え」でコミュニケーション
3	生活文化から生じるコミュニケーション・ギャップ
4	知っておきたい一般知識
5	映画鑑賞：異文化間に生じる諸問題を考えよう！（1）
6	” （2）
7	” （3）
8	” （4）
9	学生発表・評価・Q&A（1）
10	” （2）
11	” （3）
12	” （4）
13	” （5）
14	” （6）
15	” （7）
16	” （8）

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

出席率及び授業参加態度（50%）、プロジェクト及び口頭発表（50%）により総合的に評価します。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

## English Grammar I

担当教員 宮城 和文

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

テキストBasic Grammar for Communication(朝日出版)を主教材として用い、日常起こりうる会話場面を題材にしたコミュニケーション演習を行いながら英文法の基礎知識を身につけていく。あわせて、各章末にあるTOEIC形式の練習問題をこなしながら、より実践的な文法知識の定着を図る。

## 【授業の展開計画】

受講生の学習状況および学習内容の理解度に応じ、下記計画に変更が生じる場合があります。詳細については、開講日に説明します。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Course Orientation	17	Midterm Examination
2	Chapter01: Simple Present	18	Chapter12: Gerunds 1
3	Chapter02: Present Continuous	19	Chapter13: Gerunds 2
4	Chapter03: Simple Past, Past Continuous	20	Review 05 / Quiz 05
5	Review 01 / Quiz 01	21	Chapter14: Infinitives 1
6	Chapter04: Present Perfect 1	22	Chapter15: Infinitives 2
7	Chapter05: Present Perfect 2	23	Review 06 / Quiz 06
8	Review 02 / Quiz 02	24	Chapter16: Adjectives & Adverbs
9	Chapter06: Passive 1	25	Chapter17: Comparison 1
10	Chapter07: Passive 2	26	Chapter18: Comparison 2
11	Review 03 / Quiz 03	27	Review 07 / Quiz 07
12	Chapter08: Modals 1	28	Chapter19: Relative Clauses 1
13	Chapter09: Modals 2	29	Chapter20: Relative Clauses 2
14	Review 04 / Quiz 04	30	Review 08 / Quiz 08
15	Chapter10: Subjunctive 1	31	Final Examination
16	Chapter11: Subjunctive 2		

## 【履修上の注意事項】

- 自主学習帳(Vocabulary Notebook)用のノートを一冊準備してください。
- 3分の1を超える欠席がある者は学則により「不可」となります。
- 遅刻、居眠り、理由不明の離席、私語または携帯電話・メールの受送信行為は、講義進行をおおいに妨げてしまうので厳に慎しむこと。評価段階で減点対象となります。
- その他(開講日に詳細を説明します)

## 【評価方法】

- Review Quiz 40%
- Midterm/Final Examinations 30%
- Vocabulary Notebook 20%
- In-class Participation 10%

## 【テキスト】

-Basic Grammar for Communication, Etuso Ataguchi, Jonathan Lieb, & Maggie Lieb, Asahi Press (¥1,900) 朝野書房にて販売します。

## 【参考文献】

開講日および、講義の中で適時紹介します。

## English Grammar I

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

中学校・高等学校で履修した文法事項を活用しながら復習するとともに定着を図ります。

## 【授業の展開計画】

授業前半は、ペア・グループでドリル、スピーキング活動を通して文法事項の復習を行います。授業の後半は指定のテキストの担当箇所の内容についてグループ発表と全体討議を行います。（授業前半と後半の内容を入れ替えることもあります）

## 【履修上の注意事項】

- (1) 指定の座席に座る
- (2) 辞書持参（できるだけ電子辞書を持参してください）
- (3) 遅刻、無断欠席をしない（遅刻2回で欠席1回と見なします）

## 【評価方法】

出席状況、発表、クイズ、提出物を総合的に評価します。

## 【テキスト】

授業の中で連絡します。

## 【参考文献】

授業の中で紹介します。



## English Grammar I

担当教員 山本 直子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

英文読解や英作文に不可欠な英文法の基礎知識を身につける。例文を参考にして文法事項のポイントを確認し、練習問題に取り組む。文法の知識を英語の表現力養成に役立てることを目標にする。

## 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週、9週～15週

下記の文法事項について解説し、様々な例文を読む。文法の練習問題に取り組む。

現在進行形、過去形、過去進行形、現在完了形、受動態、助動詞、比較級、最上級など

第8週 中間テスト

第16週 期末テスト

## 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにする。
2. 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業には英和辞典を持参する。

## 【評価方法】

中間テスト45%、期末テスト45%、出席・授業参加10%

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

## English Grammar II

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

英文法の基礎である「5文型」及び「句と節」を学ぶ。すなわち、複雑な英文でも、文構造を理解できることにより、辞書さえあればどのような英文でも意味がわかるようになることが本講義の目的である。

## 【授業の展開計画】

指名による質問、問題の解答などを中心に講義を進めるが、重要なことは、「自分自身で文の構造を説明することができる」ことである。そのため、質問には「説明できるレベルまで理解していること」を示すように解答すること。

## 【履修上の注意事項】

2010年度前期にEnglish Grammar I（追立クラス）を受講した学生は、内容が重複するため、受講不可。

## 【評価方法】

中間試験：33%、期末試験：33%、個人指名による質問への解答など：33%

## 【テキスト】

プリント教材を使用する。

## 【参考文献】

特になし。

## English Grammar II

担当教員 仲里 和花

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

目的：既習の基本的な文法事項を復習・再確認させ、練習問題等を通して、コミュニケーションの活用につなげる。

## 【授業の展開計画】

1. テキストは44unitで構成されている。各Unitを各学生に割り当て、割り当てられたunitの文法事項について各学生はプレゼンテーションを行う。テキストをそのまま説明してもよいし、その他の参考書を使って説明してもよい。
2. 授業では、文法の練習問題Practiceを解答する。各学生は、自宅で前もって、Practiceを解いてくること。
3. 講師が作成する練習問題を各自、解いて、全員で解答する。

## 【履修上の注意事項】

1. 授業には時間通りに出席すること。20分以上、遅刻した場合は欠席とみなす。授業日数の3分の1（約10回）以上、欠席した場合は、不可とみなす。
2. 英日・日英辞書を持参すること。
3. 携帯電話は、教室内ではスイッチを切っておくこと。机の上にも置かない。
4. 授業中、喫煙や携帯電話で話すために席を離れることを禁ず。

## 【評価方法】

授業態度	20%	優	80点以上
練習問題	15%	良	70点以上80点未満
プレゼンテーション	15%	可	60点以上70点未満
中間・期末試験	50%	不可	60点未満
	100%		

## 【テキスト】

Grammar Spectrum 3 by Norman Coe [Oxford University Press]

## 【参考文献】

## English Grammar II

担当教員 西原 幹子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

**【授業のねらい】**

本講では、英文法 I で習得した知識をさらに実践的に学び、定着させることを目的とする。授業では、英文法に関する練習問題を解く作業が中心となる。

**【授業の展開計画】**

プリント教材を用い、毎回一項目ずつ進む。月一回のペースで確認小テストを行う。適宜、長文読解のためのプリントを用い、複雑な英文を読む訓練をする。

**【履修上の注意事項】**

意欲的な参加が求められる。

**【評価方法】**

授業への貢献度と、小テスト、学期末試験の結果で評価する。

**【テキスト】**

English Grammar in Use (Cambridge University Press) をもとに、プリント教材を配布する。

**【参考文献】**

『英文法解説』江川泰一郎著、金子書房

## English for Special Purposes

担当教員 -東恩納 ミシェル

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

This course will use National Geographic content, images, and video to teach useful, practical English. Clear and practical learning goals are presented and practiced through appropriate themes and topics. Real people, places, and language are used to connect learners of English to the world. Four competency-based goals in each unit give learners the chance to practice new language through communicative tasks, and learn how English is used in the real world.

### 【授業の展開計画】

Please note: As this is an oral ENGLISH class your instructor will speak only English during the class period. Please use English as much as possible in class. Please do not chat with your conversation partners in Japanese during the class period. Expect to spend several hours OUTSIDE of class time preparing for your midterm and final exams, and doing listening work.

週	授 業 の 内 容
1	Geographical regions Climate Food staples
2	Geographical regions Climate Food staples
3	Culture, communication, and gestures Small talk
4	Culture, communication, and gestures Small talk
5	City life Maps
6	City life Maps
7	Human organs Parts of the body Everyday ailments
8	Human organs Parts of the body Everyday ailments
9	Midterm Test Review and Exam
10	Physical and mental challenges Phrasal verbs
11	Physical and mental challenges Phrasal verbs
12	Stages of life Adjectives for age: youthful, childish, mature
13	Stages of life Adjectives for age: youthful, childish, mature
14	Luxury items Import/export items Past participles of irregular verbs
15	Luxury items Import/export items Past participles of irregular verbs
16	Final Test Review and Exam

### 【履修上の注意事項】

All notes for class will be taken by students provided orally by instructor.

### 【評価方法】

1. Six brief dialog or other oral presentations 30%
2. Midterm test 30%
3. Final test 30%
4. 10 hours listening 10%

If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it.

### 【テキスト】

World English 2 - Real People, Real Places, Real Language Authors: Martin Milner, Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase 1st Edition

### 【参考文献】

1. Randall's Cyber Listening Lab <http://www.esl-lab.com/>
2. ELLLO <http://www.ello.org/english/home.htm>
3. VOA <http://www.voanews.com/english/news/>
4. National Geographic <http://www.nationalgeographic.com/>

## English for Special Purposes

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

Theme - Okinawa in English

This is an integrated skills course, involving speaking, listening, reading and writing, as well as visual presentation to redress the imbalance of English classes which often focus on Anglo-American and international issues at the expense of local ones topics, leaving students with very limited resources to talk about local culture(s) in any language.

### 【授業の展開計画】

The course will consist of a combination of role plays, simulations and small-group poster presentations on a broad range of topics such as Okinawan language, society, culture, economics, tourism, the environment, history and politics.

### 【履修上の注意事項】

Discussion of serious issues relating to war, peace and the environment will form a central part of this class. On the other hand, superficial, trivial or stereotypical ways of talking about Okinawa will form part of the content of the course, but only within a critical context.

### 【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation.

### 【テキスト】

No textbook is prescribed for this course.

### 【参考文献】

## English Writing I

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

英語で作文をする。特にPARAGRAPH WRITINGを中心に勉強する。

## 【授業の展開計画】

- 第1週 Paragraphとは
- 第2週 良いParagraph・悪いParagraph
- 第3週 Paragraph Writing 1
- 第4週 Paragraph Writing 2
- 第5週 Paragraph Writing 3
- 第6週 Paragraph Writing 4
- 第7週 Paragraph Writing 5
- 第8週 Paragraph Writing 6
- 第9週 Paragraph Writing 7
- 第10週 Paragraph Writing 8
- 第11週 Paragraph Writing 9
- 第12週 Paragraph Writing 10
- 第13週 Paragraph Writing 11
- 第14週 Paragraph Writing 12
- 第15週 Paragraph Writing 13
- 第16週 まとめ

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

受講態度、宿題、出欠などを総合的に勘案し評価する。

## 【テキスト】

プリント教材などを準備し、参考図書もそのつど紹介します。

## 【参考文献】

## English Writing I

担当教員 西原 幹子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講では、基本的な文法事項をおさえながら、その知識を応用して、英語による作文の練習をする。

## 【授業の展開計画】

テキストに沿って、毎回一章ずつ進み、月に一度のペースで確認小テストを行う。テキスト内で扱う項目は次の通り。

1. 「～すべきだ」の表現
2. 「言うまでもなく」などの不定詞の慣用表現
3. 「思う」のさまざまな表現
4. 「とても～なので」の表現
5. 「できるだけ～する」の表現
6. 関係代名詞の使い方
7. It is～to～ の使い方
8. 「～はどうですか」の表現
9. 分数や倍数の表現
10. 動名詞の使い方
11. 付加疑問の表現
12. 倒置
13. 比較構文
14. 比較級と最上級
15. 不定詞の用法

その他

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

課題の提出状況と内容、小テスト、学期末テストの結果で評価する。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

『英文法解説』江川泰一郎著、金子書房



## English Writing I

担当教員 山本 直子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この授業では、基礎的な文法事項と日常の様々な場面で使われる英語表現を学びながら、その知識を応用して英作文の練習をし、平易な英語で自分の考えを述べる表現力を身につけることを目指す。

## 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週、第9週～15週

Lesson 1 Self Introduction

Lesson 2 College Life

Lesson 3 Club Activities

Lesson 4 A Party

Lesson 5 Cross-cultural Understanding

Lesson 6 Seminar

Lesson 7 Environmental Protection

Lesson 8 Telephone

Lesson 9 Driver-oriented Society

Lesson 10 A College Festival

Lesson 11 Travel Abroad

Lesson 12 Education

Lesson 13 Homestay

Lesson 14 Study Abroad

Lesson 15 War and Peace

Lesson 16 Kabuki

Lesson 17 Internet

Lesson 18 Looking for a Job

Lesson 19 Learning

Lesson 20 A Graduation Thesis

第8週 中間テスト

第16週 期末テスト

## 【履修上の注意事項】

- 1) 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにする。
- 2) 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
- 3) 授業にはテキストと英和辞典を持参する。

## 【評価方法】

出席・授業参加10%、中間テスト45%、期末テスト45%

## 【テキスト】

Let's Write and Communicate! (金星堂)

## 【参考文献】

## English Writing II

担当教員 -グレイ クエン ヒデオ

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

This course aims to elevate students' writing level. By this I mean two things in particular. I will attempt to aid willful participants in their development of both concise articulation and argumentation of their opinions and additionally challenge every last one of them to express themselves creatively. English is for fun. Let's play.

## 【授業の展開計画】

we will focus on three major assignments

- 1) self description
- 2) persuasive essay
- 3) creative fiction

週	授 業 の 内 容
1	Introduction: Nuts and Bolts
2	personal essay: rough draft
3	personal essay: edit and revision
4	personal essay: final draft
5	review
6	persuasive essay: preparation
7	persuasive essay: rough draft
8	persuasive essay: edit and revision
9	persuasive essay: final draft
10	review
11	fiction: character (draft)
12	fiction: setting (draft)
13	fiction: plot (draft)
14	fiction: edit and revision
15	fiction: final draft
16	hugs and giggles

## 【履修上の注意事項】

this is not a game

## 【評価方法】

you will be judged on your performance and your effort. (smiles don't hurt)

## 【テキスト】

Words In Motion by David Olsher; Oxford University Press

## 【参考文献】

N/A

## English Writing II

担当教員 ピーター シンプソン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

The aim of this course is to direct students' attention towards the possibility of using English as a vehicle for expressing their own concerns, whether personal, local or global, and to explore the power of writing as a means of communication.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

English is a global language which is not owned by any single culture or country. As a result of this, I aim to concentrate on successful communication rather than failed grammar.

### 【評価方法】

Assessment will be based on attendance, participation, and the body of written work students produce on the course.

### 【テキスト】

No textbook is required for this course.

### 【参考文献】

## English Writing II

担当教員 ティン・ホック レイフ・ルト

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

Better use English for communication.

Speak and understand English more easily and with confidence.

Be able to talk about yourself and your opinions in English.

Pronounce English more naturally.

Speak English in front of your classmates with fluency and confidence.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Week 1: 7 April. Introductions, Textbook Unit 0.
2	Week 2: 11 & 14 April, Unit 1 'Have you two met?'
3	Week 3: 18 & 21 April, Unit 2 'You must be excited'
4	Week 4: 9 & 12 May, Unit 3 'Going Places'
5	Week 5: 16 & 19 May, Unit 4 'I love that!'
6	Week 6: 23 & 26 May, Unit 5 'Why?'
7	Week 7: 30 May & 2 June, Unit 6 'What's it like there?'
8	Week 8: 6 & 9 June, Review Unit 1
9	Week 9: 13 & 16 June, Unit 7 'Do you remember when...?'
10	Week 10: 20 & 23 June, Unit 8 'Making Plans'
11	Week 11: 27 & 30 June, Unit 9 'What should I do?'
12	Week 12: 4 & 7 July, Unit 10 'Tell me a story'
13	Week 13: 11 & 14 July, Unit 11 'In my opinion'
14	Week 14: 18 & 21 July, Unit 12 'Looking Ahead'
15	Exam Week 25-29 July.
16	Make Up Classes in August.

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

Mid Term Test in Week 8

A final Exam.

Both tests will be oral and written.

## 【テキスト】

Chuck Sandy et.al English Firsthand New Gold Edition 2, Longman 2009

## 【参考文献】

## English Reading I

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この授業では精読と概要把握のふたつの読み方を身につけることを大きな目標とする。題材は時事英語、比較文化、名スピーチ、沖縄の社会文化など幅広い分野のものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などを詳しく見ながら正確な内容理解に努めるとともに、それぞれの題材について自分なりに考え、英語で意見、疑問、感想などを述べる練習をする。

## 【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) 電子辞書を持ってくること
- (3) シラバスに基づき、必ず予習をして授業に臨むこと（予習には音読を含む）
- (4) 私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席、課題・提出物、授業態度、授業への貢献度、テストの結果など総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業開始時に指示する。

## 【参考文献】

適宜配布する。

## English Reading I

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

音読・速読の練習をする。

### 【授業の展開計画】

毎回前半は音読の練習、後半は速読の練習をする。

### 【履修上の注意事項】

1. 辞書を必ず持参すること。 2. 遅刻しないこと。 3. 無断欠席をしないこと。 4. 携帯電話の電源を切ること。 5. 居眠りをしないこと。 6. 私語をしないこと（私語をすると退室）。

### 【評価方法】

毎回音読をしてもらい評価するとともに速読のテストで評価する。

### 【テキスト】

プリント教材を準備する。

### 【参考文献】

その都度紹介する。

## English Reading I

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

精読と多読を通して語彙力と読解力の強化を図ります。

### 【授業の展開計画】

授業前半は指定教科書の精読、後半は多読を行います。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席、遅刻をしない  
(遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。1/3以上欠席の場合単位は認められません。)
- (2) グループごとに座る
- (3) 辞書持参

### 【評価方法】

授業態度（出席率、積極性、発言）、クイズ、提出物を総合的に評価します。

### 【テキスト】

授業の中で連絡します。

### 【参考文献】

## English Reading II

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この授業では前期のEnglish Reading Iに引き続き、精読と内容把握のふたつの読み方をさらに磨くとともに、多読にも挑戦する。題材は、比較文化、英米の言語文化、沖縄の社会文化など、幅広いものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などにも目を向けながら、それぞれの題材について、要点、意見、疑問、感想などを英語で述べる練習をする。

## 【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) 電子辞書を持ってくること
- (3) シラバスに基づき、必ず予習をして授業に臨むこと（予習には音読を含む）
- (4) 私語、居眠りをしないこと
- (5) 授業中は携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席、宿題、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業開始時に指示する。

## 【参考文献】

適宜配布する。



## English Reading II

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

音読・速読の練習をする。

### 【授業の展開計画】

授業の前半は音読の練習、後半は速読の練習をする。

### 【履修上の注意事項】

1. 英和辞書を必ず持参すること。 2. 遅刻をしないこと。 3. 無断欠席はしないこと。 4. 携帯電話の電源は切ること。 5. 居眠りをしないこと。 6. 私語をしないこと（私語をすると即退室）。

### 【評価方法】

毎回の音読発表で評価するとともに2回の速読のテストをする。

### 【テキスト】

プリント教材を準備する。

### 【参考文献】

その都度紹介する。

## English Reading II

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

前期に引き続き多読・速読により語彙力、読解力を強化を図ります。

## 【授業の展開計画】

授業前半は、語彙力問題と様々なトピックの精読をペア・グループ単位で行い、授業後半は前期に引き続き個々のペースで多読を行います。

## 【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席、遅刻をしない  
(遅刻2回で欠席1回とみなします。1/3以上欠席の場合単位が認められません。)
- (2) 授業で使用する本には何も書き込まない。
- (3) 読んだ本は授業後に必ず返却する(本を持ち帰らない)

## 【評価方法】

出席状況、クイズ、提出物(リーディングログ)を総合的に評価します。

## 【テキスト】

授業の中で連絡します。

## 【参考文献】

## インターネット英語

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

My main aim is to challenge students to become actively involved in the English world of the Internet. Students will be expected to take the initiative in writing blogs, creating their own pages, listening to podcasts, chatting with others, posting on bulletin boards, and choosing their own creative ways to be involved on the Internet.

## 【授業の展開計画】

Students will work individually but will interact with classmates and outsiders through the Internet. Here are some of the activities that we will do during class:

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class, opening new e-mail accounts, setting up group pages, etc.
2	Setting up one's own webpage, making contacts
3	Social networking (MySpace, Friendster, BingBox, Xanga, etc.)
4	Reading and writing blogs (Blogster.com, etc.)
5	Posting on bulletin boards
6	On-line chat (OIU VIVA site, etc.)
7	On-line chat (OIU VIVA site, etc.)
8	Watching English videos (YouTube)
9	Watching English videos (YouTube)
10	Listening to and participating in podcasts
11	Listening to and participating in podcasts
12	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
13	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
14	Quizlet, Rikai.com, and other sites for studying English
15	On-line vocabulary study and English games
16	English study through song lyrics

## 【履修上の注意事項】

Students are assumed to have a basic understanding of how to use the Internet, but instruction will be provided if needed. All work should be done in English. Visiting non-English sites will result in an automatic deduction in the final grade.

## 【評価方法】

On-line folders will be evaluated three times during the semester, and the three grades will be averaged together to calculate the final grade. Students are expected to submit a 100-word absence report for each class missed, but still must attend more than 75% of all classes. Students are reminded to save a copy of everything that they post to the "My Posts" folder in their yahoo.com mail account page.

## 【テキスト】

No textbook is required for this class. However, students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.

## 【参考文献】

The address for our group page is as follows:  
<http://groups.yahoo.com/group/OIUInternetEnglish/>

## 英語音声学

担当教員 李 イニッド

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

This course combines theory and practice in articulatory phonetics with a focus on the basic concepts of English speech sounds.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	The Vocal Organs; Sound Classes
3	Consonants: Places of Articulation
4	Consonants: Manners of Articulation
5	Vowels: Articulation & Classification
6	The Transcription of English Vowels & Consonants
7	Consonant & Vowel Charts; Midterm Exam
8	The Syllable
9	Accent
10	Rhythm
11	Coarticulation & Other Phonological Processes
12	Intonation (1)
13	Intonation (2)
14	World Englishes (1)
15	World Englishes (2)
16	Final Exam

## 【履修上の注意事項】

No particular requirements.

## 【評価方法】

Attendance, Class Participation & Homework (50%). Mid-term & Final Exams (50%).

## 【テキスト】

To be announced in class.

## 【参考文献】

## 英語学概論

担当教員 新垣 實

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

英語学概論とは、アメリカ人やイギリス人が乳幼児のころから習い覚える英語の言語習慣や規則の体系を音声、語彙、文、意味などの角度から総論的に勉強する学問分野です。英語を単なるコミュニケーションツールとしてではなく、そのしくみを科学的に分析し記述する方法論を学び、英語に対する言語学的理解を深めることを目指します。

### 【授業の展開計画】

第1週 言語と言語学  
第2週 英語と英語学  
第3週～第4週 音韻論  
第5週～第7週 形態論  
第8週 中間試験  
第9週～第11週 統語論  
第12週 第13週 意味論  
第14週 語用論  
第15週 英語の歴史  
第16週 期末試験

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

受講態度、宿題、中間・期末、出欠などを総合的に勘案し評価する。

### 【テキスト】

プリント教材などを準備

### 【参考文献】

参考図書もそのつど紹介します。

## 英語学特殊講義

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講義では社会言語学を立脚点とし、ことばの日常的使用に注目する。多言語社会、ダイグロシア、言語の死、ジェンダーと言語、ポライトネス、etc.を取り上げる予定である。また、近年の言語人類学の知見も取り入れる可能性もあり、特殊講義らしい多様な内容になるように現在準備中である。シラバス執筆時（2011年1月）から開講時（2011年10月）までの間に、興味深いテーマが見つければ随時取り入れて行きたい。科目名「英語学特殊講義」という堅苦しい名前に惑わされず、ことばに興味のある人は受講してもらいたい。

### 【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。尚、参加者数に応じて授業形式を柔軟に変えることもある。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度

### 【テキスト】

現在選定中につきTBA。開講時に指示します。尚、図書館の「指定図書」も随時参考にして下さい。

### 【参考文献】

東 照二 2009『社会言語学入門<改訂版> 生きた言葉のおもしろさに迫る』東京：研究社 ¥2,450.  
原 聖（編）2010『言語的多様性という視座（ことばと社会）』東京：三元社. ¥2,415.

## 英語教育学

担当教員 野口 正樹

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

本講義は、3年次履修の英語科教育法Ⅰの introduction になります（従って、英教法履修予定者は“原則”受講することが望ましいです）。英語科教育の現状を overview し、問題点を把握します。そして、今後目指すべき英語科教育の方向性を明らかにします。講義の前半45分は指定 group が略式 presentation を行います。「わかる」段階に留まらず、「使える・説明できる」段階を模索します。後半45分は、授業者が例示や解説を行い、受講者の疑問に答えます。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation（group 毎）
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢

### 【テキスト】

講義内で連絡します。

### 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 英語教育教材研究

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

本講義は、英教法Ⅰの実践編及び英教法Ⅱの補足編になります。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。文部科学省検定中学・高校教科書を取り上げ、抽出した各 section/lesson の題材を分析し、理想的な教材を作成します。flash/picture cards の作り方、target sentences の導入・理解・運用を目指す各種活動、復習・定着・まとめの ideas、黒板・教室の使い方、音楽・照明・PC・screen の活用等、教室内外のあらゆる素材を利用して、学習者の異文化コミュニケーション能力と心の豊かな人格の陶冶を図ります。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡ください。
- ③ 課題は、期限までに毎時完成させましょう。
- ④ 携帯電話は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢
- ⑦ 教材作成

### 【テキスト】

講義内で連絡します。

### 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。



## 英語教育特論

担当教員 池野 修

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

(1) 「(英語) コミュニケーション」「(英語) コミュニケーション活動」について原理的に考察することを通して、それらに対する理解を深める。(2) 英語コミュニケーションの基礎作りのための諸活動を英語学習者として体験し、英語教授者として自らの活動レパートリーを豊かにする。(3) 英語による自己表現活動の多様な実践に触れ、それぞれの活動の意義や実施上の留意点などについて理解する。(4) 「英語の学習意欲」について、意欲を高める／低下させる要因について理解し、学習意欲について多面的に考察するための様々な視点を獲得する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「コミュニケーション(活動)」と何か
2	英語の音作り(楽しく学ぶ英語発音講座)
3	英語コミュニケーションの土台を作る学習活動(1)(e.g. 音読, shadowing)
4	英語コミュニケーションの土台を作る学習活動(2)(e.g. 繰り返しの工夫)
5	Reproducing活動(e.g. Read & Tell, Story Retelling)
6	リーディング活動のバリエーション(1)
7	リーディング活動のバリエーション(2)
8	技能教育&人間教育としての自己表現活動(1)(e.g. Show & Tell)
9	技能教育&人間教育としての自己表現活動(2)(e.g. 英語の卒業文集)
10	Opinion gap / imagination gap の活用
11	英語ディスカッション活動
12	簡易ディベート
13	英語学習意欲に関するエピソードの分析
14	英語学習意欲を高める／低下させる要因
15	英語学習意欲を高めるための方略
16	まとめとレポート課題

## 【履修上の注意事項】

この授業は(教員による講義ではなく)受講生による活動が中心になるので、受講される方は、積極的に活動に参加する、授業の充実に自らが貢献するという強い意志を持って下さい。

## 【評価方法】

- (1) 平常点(出席と授業活動への参加) (70点)
- (2) レポート (30点)

## 【テキスト】

## 【参考文献】

**英語圏社会文化特殊講義**

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

**【授業のねらい】**

This class is intended to give students an opportunity to explore and question issues relating to society and culture in parts of the world outside Britain and the United States where the English language serves some function.

**【授業の展開計画】**

In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.

A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.

**【履修上の注意事項】**

\* For scheduling reasons, I would like to advise students who are taking this class not to register for イギリスの社会と文化.

\* Communication of ideas will take precedence over medium of communication.

**【評価方法】**

Assessment will be based on the following:

\* assignments relating to course content

\* attendance and participation

**【テキスト】**

No textbook is required for this class. Instead, students will be expected to find information from a variety of sources.

**【参考文献】**

## 英語情報処理 I

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. Wherever possible, English language versions of software are used. In this course we will be introduced to computer spreadsheets, presentation techniques using PC software, databases, and word processing for academic and business purposes.

### 【授業の展開計画】

This course provides English major students with the fundamentals of:

- 1) computer hardware
- 2) operating systems and user interfaces
- 3) file systems
- 4) networking
- 5) eMail and social networking
- 6) computer graphics
- 7) eLearning fundamentals
- 8) deep Internet searching and data mining

### 【履修上の注意事項】

As each class session builds upon what was presented in the previous one, class participation is essential in this course. Students who miss classes are responsible for getting their own lecture notes.

### 【評価方法】

Mid-term exam: 40%

Final report: 60%

### 【テキスト】

大串夏身、文科系学生のインターネット検索術、青弓社、2001年

### 【参考文献】

Any good paper or electronic English-Japanese / Japanese-English dictionary.

## 英語情報処理 I

担当教員 真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、資料収集、まとめ、発表などに必要なパソコン操作の基本技能を習得することを目的に、Word 2007 を使って実践的な演習を行います。また課題をこなす中で英文のブラインドタッチのマスターおよび入力速度の向上も図ります。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	Wordについて
3	キーボード入力について(1)
4	キーボード入力について(2)
5	文書の管理・作成・編集について(1)
6	文書の管理・作成・編集について(2)
7	表罫線・作図について(1)
8	表罫線・作図について(2)
9	画像・テキスト挿入について
10	文書作成機能について(1)
11	文書作成機能について(2)
12	差し込み印刷について
13	ひな形文書について(1)
14	ひな形文書について(2)
15	複雑な文書作成について
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

具体的な課題を一つ一つこなしていくことがコンピュータ技能の習得につながります。また継続した学習が求められますので出席も重視されます。毎時の課題をこなすだけでなく、いかにして効率よく正確に作業を行えるかを常に意識することが大切です。自主的・積極的な学習態度と、パソコン操作の疑問点について自ら調べたり周りに質問したりする姿勢が求められます。

## 【評価方法】

評価は毎時の課題提出と期末の課題レポートが主な対象となります。

## 【テキスト】

1. 「例題30+演習問題70でしっかり学ぶWord標準テキストWord 2007」 斉藤正生 技術評論社
2. 別途プリント教材

## 【参考文献】

## 英語情報処理 I

担当教員 真喜志 満

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講座は、キーボード練習によるブラインドタッチをマスターすることから始め、最終的には外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する英文書類を作成する能力を身につけることを目的とする。進め方は、実際の書類を教材に演習を行っていく。使用ソフトはMicrosoft Wordが中心である。演習にあたっては、常に10本の指をフルに使ったブラインドタッチの基本を忘れないようにすることが大切である。単に与えられた教材を真似て作るだけでなく、全体のフォーマットや状況を考えながら、習得することが重要である。

### 【授業の展開計画】

1週目	講義内容の説明、導入
2週目	ブラインドタッチ演習・初級～中級
3週目	ブラインドタッチ演習・上級
4週目	入力速度測定
5週目	段組のある雑誌記事での入力演習
6週目	学級プロジェクトその1〈パワーポイント使用〉
7週目	学級プロジェクトその2〈パワーポイント使用〉
8週目	文書作成：ビジネスレター、英文履歴書
9週目	実地的ビジネスレターの作成
10週目	筆記体からのビジネスレターの作成
11週目	メモ書きを基にした実地的書類作成
12週目	和文英訳をしながらのレター作成
13週目	ワード機能をフルに使った演習
14週目	英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷
15週目	期末試験
16週目	提出物・成績最終確認

### 【履修上の注意事項】

やむを得ず欠席する場合は、所定の欠席届を提出のこと。

### 【評価方法】

出席30%、入力速度測定10%、作成文書や宿題等の提出物50%、期末試験10%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。演習を中心の授業なので、評価の配分は試験より実践のほうがはるかに高い。学生には、とにかく毎回出席して、与えられた課題をこなし提出することが望まれる。

### 【テキスト】

使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。

### 【参考文献】

## 英語情報処理Ⅱ

担当教員 ダグラス トライスカット

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. In this course we will be introduced to computer spreadsheets, database management software, presentations techniques using presentation software, and word processing for both business and academic purposes.

### 【授業の展開計画】

This course provides English major students with the fundamentals of:

- 1) spreadsheet software
- 2) database management software
- 3) presentations techniques using presentation software
- 4) word processing for business
- 5) word processing for academic purposes

### 【履修上の注意事項】

As each class session builds upon what was presented in the previous one, class participation is essential in this course. Students who miss classes are responsible for getting their own lecture notes

### 【評価方法】

- 1) a spreadsheet file - 5%
- 2) a database file - 10%
- 3) one presentation using Powerpoint - 40%
- 4) one academic report using Word - 40%

There will also be one quiz on netiquette, copyright infringement, and privacy. - 5%

### 【テキスト】

Maran, Ruth. Office 2007 Simplified

### 【参考文献】

Any good paper or electronic English-Japanese / Japanese-English dictionary.

## 英語情報処理Ⅱ

担当教員 真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、前期の英語情報処理Ⅰで学んだパソコンの基本操作から発展させ、資料収集、まとめ、発表などに必要な関連ソフトの習得を目指します。またインターネットを活用した各種ツールを紹介しながら、より実践的な演習を行います。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	Excel 2007について(1)
3	Excel 2007について(2)
4	Excel 2007について(3)
5	Excel 2007について(4)
6	Excel 2007について(5)
7	PowerPoint 2007について(1)
8	PowerPoint 2007について(2)
9	PowerPoint 2007について(3)
10	PowerPoint 2007について(4)
11	PowerPoint 2007について(5)
12	その他の関連ソフトについて(1)
13	その他の関連ソフトについて(2)
14	インターネット上の各種ツールの活用について(1)
15	インターネット上の各種ツールの活用について(2)
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

基礎的なキーボード入力ができることを前提としているので、履修する学生は情報基礎Ⅰを修了していることが望ましいです。具体的な課題を一つ一つこなしていくことがコンピュータ技能の習得につながります。また継続した学習が求められますので出席も重視されます。毎時の課題をこなすだけでなく、いかにして効率よく正確に作業を行えるかを常に意識することが大切です。自主的・積極的な学習態度と、パソコン操作の疑問点について自ら調べたり周りに質問したりする姿勢が求められます。

## 【評価方法】

評価は毎時の課題提出と期末の課題レポートが主な対象となります。

## 【テキスト】

初回の講義で指示します。

## 【参考文献】

## 英語情報処理Ⅱ

担当教員 真喜志 満

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講座の主な目的は、外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する書類を英語で作成する能力を身につける為のコースである。進め方としては、実際の英文書類を教材として、作表やグラフ作成などの演習を行っていく。インターネットも活用するが、使用ソフトはMicrosoft Excelが中心である。演習にあたっては、単にワープロ感覚で作表するのではなく、様々なデータ処理機能を活用しながら、書類を作成する能力を身につけることが大切である。

## 【授業の展開計画】

- 1週目 講義内容の説明、導入
- 2週目 アドレス帳の作成
- 3週目 単語帳の作成とインターネットの活用
- 4週目 日程表の作成
- 5週目 作表：Company's Report Their Earnings + Monthly Income
- 6週目 作表：Nikkei 225 Futures
- 7週目 作表+グラフ作成：Statistics on Japanese Population + 人生カレンダー
- 8週目 作表+グラフ作成：Expenditure Analysis
- 9週目 複雑な体裁を整える演習：Voice Messaging Matrix
- 10週目 作表：Import Calculation <前編>
- 11週目 作表：Import Calculation <後編>
- 12週目 作表：成績表<前編>
- 13週目 作表：成績表<後編>
- 14週目 特別講義：試験の傾向と対策 + 成績シミュレーション + 授業評価アンケート
- 15週目 期末試験
- 16週目 特別講義：提出物・成績最終確認・追加作業

## 【履修上の注意事項】

基礎的なキーボード入力ができることを前提としているので、履修する学生は情報基礎Ⅰを修了していることが望ましい。欠席する場合は、できる限り事前に所定の欠席届を提出すること。急な病欠などは仕方がないので、翌週までに医療機関にかかったことを証明する書面をコピーして欠席届に添付して提出すること。それ以外は、「病欠」とは認められない。「公欠」についても、必ず顧問の教官から出された書面を添付して提出すること。出欠は授業開始と同時に取るので、遅刻をしないよう心がけること。

## 【評価方法】

出席35%、提出物35%、宿題15%、期末試験15%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。実践的演習を中心に行う授業なので、評価の配分は試験よりも日頃の実践のほうが高い。また、提出期限を過ぎてからの提出物については、一日の遅れにつき1.5ポイントの減点となる。従って、課題を貯めて、期末に提出しても意味がない。とにかく学生は毎回出席して、授業に集中し、与えられた課題をこなして期限内に提出することが望まれる。

## 【テキスト】

使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。

## 【参考文献】

図書館所蔵の 各種Microsoft Office マニュアル本



## 英語情報処理Ⅲ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

この授業では大学で必要な情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイトを構築する方法を学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。授業でウェブサイトを実際に開発しながら情報処理術を学ぶ。

### 【授業の展開計画】

1. ウェブサイトのしくみ
2. 情報アーキテクチャの概要 1
3. 情報アーキテクチャの概要 2
4. 情報の組織化
5. ナビゲーションの設計
6. ラベリングシステム
7. イラストレーションソフト入門
8. 画像処理ソフト入門 1
9. 画像処理ソフト入門 2
10. HTML入門 1: Basic Tags
11. HTML入門 2: Images
12. HTML入門 3: Tables
13. HTML入門 4: Links
14. HTML入門 5: Lists
15. HTML入門 6: Page Layout

### 【履修上の注意事項】

課題は全部提出すること。無断欠席に注意。

### 【評価方法】

テスト 20%

課題: Web page project - 80%

### 【テキスト】

Rosenfeld and Morville共著, 篠原稔和 監訳、情報アーキテクチャ入門、1998, オライリー・ジャパン.

### 【参考文献】

\* HTMLタグ辞典

\* Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則、2001, SoftBank Publishing.

\* Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003.

## 英語情報処理Ⅲ

担当教員 島村 岳

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

ホームページをはじめとするデジタル技術の利用法を学ぶ。デジタル技術全般の概念・用語、ビデオ動画などのデータ処理(音声データ処理、画像処理)、Gifアニメ、FLASHを含むHTMLの学習。学生各自が各マルチメディア素材を生かしたホームページ、教材を作成できるような知識、技術を身につける。最終的には(英語情報4-後期)、全体で10ページ前後、使用画像数40点前後、重さ3メガ程度のホームページを生徒自身で作成させる。

## 【授業の展開計画】

- 1週目 (マルチメディア概論) マルチメディア全般用語説明  
 2週目 (マルチメディア概論) マルチメディア技術の基礎知識  
 3週目 (画像処理ビットマップ) 画像圧縮と変換・画像加工～PHOTOSHOP編/1 写真加工、配付された課題の加工-1  
 4週目 (画像処理ビットマップ) 画像圧縮と変換・画像加工～PHOTOSHOP編/2写真加工、配付された課題の加工-2、ファイル変換(jpeg)、ホームページ(HTML)への張り付け  
 5週目 (画像処理ビットマップ) 画像圧縮と変換・画像加工～PHOTOSHOP編/3自由製作-1  
 6週目 (画像処理ビットマップ) 画像圧縮と変換・画像加工～PHOTOSHOP編/4自由製作-2  
 7週目 (画像処理ビットマップ) 画像圧縮と変換・画像加工～PHOTOSHOP編/5自由製作-3、ファイル変換(jpeg)、ホームページ(HTML)への張り付け  
 8週目 (画像処理ポストスクリプト) イラスト・アニメの作成～Illustrator編/1 TORIの作成  
 9週目 (画像処理ポストスクリプト) イラスト・アニメの作成～Illustrator編/2 TORIの作成  
 10週目 (画像処理ポストスクリプト) イラスト・アニメの作成～Illustrator編/3 TORIの作成  
 11週目 (画像処理ポストスクリプト) イラスト・アニメの作成～Illustrator編/4 TORIの作成、ファイル変換(gif)、ホームページ(HTML)への張り付け  
 12週目 (HTML) HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/1  
 13週目 (HTML) HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/2  
 14週目 (HTML) HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/3  
 15週目 (プレゼンテーション)

## 【履修上の注意事項】

技術ではなく、ホームページを作ることによりメディアの理念を学びたい、そんな学生の受講を希望します。インターネットは見ているが作ったことがない、まだ技術病に毒されていない、自分のメディアを持ってみたいといった生徒の受講を希望します。技術の取得ではなく、理念の学習の場となり、デジタル教材の作成ができるようになることを目標とします。

## 【評価方法】

以下の提出物・発表より成績の評価をします。

- 1). 製作ホームページのテーマ
- 2). ホームページ構成図
- 3). 写真画像(ビットマップ系画像)
- 4). ポストスクリプト系画像

## 【テキスト】

講義に即したテキストを、私が製作、ホームページ上  
<http://soranchu.bbplus.net/joho/>  
 に準備します。

## 【参考文献】

## 英語情報処理Ⅳ

担当教員 島村 岳

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

ホームページをはじめとするデジタル技術の利用法を学ぶ。デジタル技術全般の概念・用語、ビデオ動画などのデータ処理(音声データ処理、画像処理)、Gifアニメ、FLASHを含むHTMLの学習。学生各自が各マルチメディア素材を生かしたホームページ、教材を作成できるような知識、技術を身につける。最終的には(英語情報4-後期)、全体で10ページ前後、使用画像数40点前後、重さ3メガ程度のホームページを生徒自身で作成させる。

### 【授業の展開計画】

- 1週目 (マルチメディア概論) マルチメディア全般用語説明
- 2週目 (マルチメディア概論) マルチメディア技術の基礎知識
- 3週目 PHOTOSHOP復習-1
- 4週目 PHOTOSHOP復習-2
- 5週目 Illustrator復習-1
- 6週目 Illustrator復習-2
- 7週目 (音声処理) 音声ファイル形式・音声取込と加工/1
- 8週目 (音声処理) 音声ファイル形式・音声取込と加工/2
- 9週目 (動画) FLASH加工/1
- 10週目 (動画) FLASH加工/2
- 11週目 (動画) 製作ホームページのテーマ、ホームページ構成図
- 12週目 (HTML) HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/1
- 13週目 (HTML) HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/2
- 14週目 (HTML) HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/3
- 15週目 (プレゼンテーション) 各自が作成したホームページを発表

### 【履修上の注意事項】

技術ではなく、ホームページを作ることによりメディアの理念を学びたい、そんな学生の受講を希望します。インターネットは見ているが作ったことがない、まだ技術病に毒されていない、自分のメディアを持ってみたいといった生徒の受講を希望します。技術の取得ではなく、理念の学習の場となり、デジタル教材の作成ができるようになることを目標とします。

### 【評価方法】

以下の提出物・発表より成績の評価をします。

- 1). 製作ホームページのテーマ
- 2). ホームページ構成図
- 3). 作成したホームページ

### 【テキスト】

ホームページ

<http://soranchu.bbplus.net/joho/>

がテキストとなります。

### 【参考文献】

## 英語情報処理Ⅳ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

この授業では大学で必要な情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイトを構築する方法を学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。授業でウェブサイトを実際に開発しながら情報処理術を学ぶ。

### 【授業の展開計画】

1. 検索システムとウェブサイト
2. ユーザの調査
3. 概念によるデザイン
4. 制作と作業工程
5. アーキテクチャの事例研究
6. 高度なHTMLテクニック
7. イラストレーション作成と画像処理テクニック
8. Flashアニメーションテクニック
9. Javascript入門
10. データベース入門 1
11. > CFML入門
12. ウェブページ作成テクニック 1
13. ウェブページ作成テクニック 2
14. ウェブページ作成テクニック 3
15. ウェブページ作成テクニック 4

### 【履修上の注意事項】

課題は全部提出すること。無断欠席に注意。

### 【評価方法】

Student will be evaluated on their contributions to a group website construction project. The project will be evaluated on: 1) content - 20%, 2) graphic design - 20%, 3) usability, ease of navigation - 20%, 4) information architecture - 20%, 5) interactivity - 20%

### 【テキスト】

- ・ J. M. スプール、et. al.、Webサイトユーザビリティ入門、2002、東京電機大学出版局。
- ・ ヤコブ・ニールセン、ユーザビリティエンジニアリング原論、2002、東京電機大学出版局。

### 【参考文献】

- ・ Rosenfeld and Morville共著、篠原稔和 監訳、情報アーキテクチャ入門、1998、オライリー・ジャパン。
- ・ Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003.
- ・ Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則、2001, SoftBank Publishing.

## 英米演劇概論

担当教員 西原 幹子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講では、英米の演劇史の流れを概観しながら、代表的な作品をいくつか取り上げる。具体的な作品読解を通して、物語の舞台となっている時代の社会、生活、文化について理解を深め、作品それぞれの魅力を味わう。

### 【授業の展開計画】

- 1週目 講義内容の説明
- 2週目 イギリス中世演劇
- 3～5週目 シェイクスピアと大衆演劇
- 6～7週目 サヴォイ・オペラ
- 8～10週目 風習喜劇：Oscar Wilde の作品読解
- 11週目 アメリカ大衆演劇
- 12～14週目 アメリカ家庭演劇：Tennessee Williams の作品読解
- 15週目 現代演劇

### 【履修上の注意事項】

作品読解の際には、グループ発表の形式を取ります。

### 【評価方法】

学期末試験60%、授業への貢献度40%

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

## 英米詩概論

担当教員 西原 幹子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講では、英語で書かれた詩を読み解くことの難しさと面白さを体験することを通して、言葉と人との関わりについて考えることを目的とします。

## 【授業の展開計画】

それぞれの詩人の作品を一編ずつ鑑賞する予定。グループに分かれ、担当を決めてコメントしてもらいます。

週	授 業 の 内 容
1	講義説明、詩とは何か
2	詩のリズム
3	Edmund Spenser
4	William Shakespeare
5	John Donne
6	Alexander Pope
7	William Blake
8	S.T. Coleridge
9	Nursery Rhyme
10	Edgar Allan Poe
11	Emily Dickinson
12	T.S. Eliot
13	Hart Crane
14	Elizabeth Bishop
15	Sylvia Plath
16	試験

## 【履修上の注意事項】

意欲的な参加が求められる。

## 【評価方法】

講義への貢献度、発表内容、試験の結果を総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

『イギリス詩を学ぶ人のために』東中稜代・小泉博一編（世界思想社）  
『英米詩への旅』西原洋子（晶文社）

## 英米社会文化特論

担当教員 田仲 康博

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

このクラスでは、「アメリカ」を地政学的な実体としてだけではなく、ある種の「文化的事象」としてとらえる。明治以降、アメリカはもっとも影響力の大きい「他者」として日本/沖縄の前に立ち現われてきた。私たちは、一方で基地の重圧に苦しみながら、同時にアメリカ経由のもの(映画、ファッション、音楽など)に憧れを抱いてもいる。その存在自体が二重性をおびる「アメリカ」。

### 【授業の展開計画】

ここでは、17年間という年月をアメリカで過ごした講師の実体験を交えながら、さまざまな角度からアメリカを考察する。その上で、身の回りに溢れている「アメリカ的なるもの」にどう向き合っていけばいいのかについて、学生と講師がともに思索を深めていくような(場)にしたい。

週	授 業 の 内 容
1	イントロ：「アメリカ」という物語
2	ブルー・ハイウェイの旅
3	紀行文学でたどるアメリカ(ケルアック、スタインバック、パーシングなど)
4	「アメリカ」との遭遇： 明治日本とアメリカ
5	冷戦、日本/沖縄、アジア： 他者としてのアメリカ
6	日本の復興、沖縄の占領
7	ポーク卵の秘密： アメリカ文化の流入 ①
8	「マイホーム」という語り： アメリカ文化の流入 ②
9	ハリウッドからの便り： アメリカ文化の流入 ③
10	占領者のまなざし ① 映画『八月十五夜の茶屋』
11	占領者のまなざし ② 琉球大学とアメリカ
12	Welcome to BC Street: ロックとコザ
13	帰って来た沖縄の子どもたち： 復帰運動とアメリカ
14	祝祭空間「オキナワ」： 2000サミットをめぐって
15	世界のなかのアメリカ、アメリカのなかの世界
16	アメリカという呪縛： まとめに代えて

### 【履修上の注意事項】

問題意識をもって講義にのぞむこと。沖縄という空間にあっては、身の回りのもの全てが教材(考える上での材料)になる。

### 【評価方法】

出席(20%)、ファイナルレポート(80%)

### 【テキスト】

### 【参考文献】

田仲康博『風景の裂け目—沖縄、占領の今』せりか書房、2010年  
吉見俊哉『親米と反米—戦後日本の政治的無意識』岩波書店、2007年

## 英米小説概論

担当教員 山本 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

この講座では、19世紀、20世紀の英語作家によって書かれた小説の読解を通して、それぞれの作家の思想について学ぶとともに、英語圏の文学、文化、社会、歴史についての幅広い基礎知識を身につけることを目標にする。また、物語を読む楽しさを味わいながら、作家の表現力豊かな文章に触れ、自らの英語力向上に役立ててもらいたい。

### 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

下記の作家の作品を取り上げる。

受講者に作品のあらすじやテーマについて順番に発表してもらおう。

作家、作品の書かれた時代、社会背景について理解を深めながら作品の抜粋を読み解釈する。

文学作品を理解するための手助けとして、随時、映画鑑賞も授業に取り入れる予定。

第2週～7週

テーマ「19世紀のアメリカ小説における女性の表象」

Louisa May Alcott

Charlotte Perkins Gilman

第8週 中間テスト

第9週～12週

テーマ「George Orwellの見た20世紀の社会主義と帝国主義」

George Orwell

第13週～15週

テーマ「フェミニズム批評で読む\_Jane Eyre\_—19世紀イギリスの女家庭教師」

Charlotte Bronte

第16週 学期末テスト

### 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業に英和辞典を持って来ること。

### 【評価方法】

中間テスト40%、学期末テスト40%、発表10%、出席・授業参加10%

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献】

授業中に紹介する。



## 英米文学概論

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

英語で書かれた文学作品の鑑賞を通して、英米の文学、文化、社会、歴史に関する基礎的な知識を身につけるとともに、実際の作品に触れることにより、「文学とは何か」を考えることを目標とする。今年度は、小説やエッセイなどの講読を通して、「アメリカ黒人文学」という特殊なテーマを取り上げ、考察する。また、現代沖縄文学の作品も適宜取り入れ、アメリカ黒人文学との共通点を探ることにより、文学の普遍性を考察する。

### 【授業の展開計画】

毎回、作品のあらすじやテーマなどを中心に、グループ発表とディスカッションにより授業を進める。予め指名されたグループは、作品のあらすじ、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を作成し、全員に配布すること。グループの発表を基にして、全員が作品について議論を行う。作品は、全員必ず読んでおくこと。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

中間試験：33%、期末試験：33%、グループ発表・発言33%

### 【テキスト】

主にプリント教材を用いる。

### 【参考文献】

『アメリカ黒人の歴史』本田創造（岩波新書）、その他、適宜紹介する。

## Oral Communication I

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This course is designed to help first year students improve their speaking and listening skills and their overall ability to communicate.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Unit 1 & Listening Tests
3	Unit 2 & Listening Tests
4	Unit 3, Presentations & Listening Tests
5	Unit 4 & Listening Tests
6	Unit 5 & Listening Tests
7	Unit 6 & Listening Tests
8	Unit 7, Interviews & Listening Tests
9	Unit 8 & Listening Tests
10	Unit 9 & Listening Tests
11	Unit 10, Presentations & Listening Tests
12	Unit 11 & Listening Tests
13	Unit 12 & Listening Tests
14	Unit 13 & Listening Tests
15	Unit 14, Presentations & Listening Tests
16	Interview Tests

### 【履修上の注意事項】

The class will be conducted primarily in English. Students should come to class with their textbooks and prepared to interact with the teacher and other students using English.

### 【評価方法】

Regular attendance is extremely important in this class. Students will be evaluated based on their attendance, class participation and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.

### 【テキスト】

Shimizu, P. & Gaston, B. Marathon Mouth Plus, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)

### 【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

The aim of this course will be for students to improve their ability to communicate in English. In order to maximize speaking time, students will do most of their work in pairs or small groups. I expect students to refrain from speaking in Japanese and to speak English as often as possible.

### 【授業の展開計画】

Classes will consist of lectures and so-called "language gap" activities, which will take place in pairs or small groups. The group activities depend on active student participation, so I expect students to be enthusiastic about speaking English.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to the course, self-introductions, whole group activity
2	Introducing others, group skits (using rejoinders and follow-up questions)
3	Lecture: How to describe a scene (confirmation questions, clarifications)
4	Pair Work: Explaining and drawing pictures (eliciting confirmation)
5	Pair Work: Explaining and drawing pictures (eliciting confirmation)
6	Lecture: How to give directions in English (echoing instructions)
7	Role Play: Asking for and giving directions in English
8	Lecture: How to tell and listen to a story in English (soliciting details)
9	Pair Work: Telling and listening to stories in English
10	Pair Work: Telling and listening to stories in English
11	Listening to and discussing an English song
12	Group Activity: Interpreter role play (keeping or killing the conversation)
13	Group Activity: Preparing final skits (expressing opinions, making a group decision)
14	Group Activity: Preparing final skits (expressing opinions, making a group decision)
15	Final Skits
16	Final Exam (on the textbook)

### 【履修上の注意事項】

I expect students to be enthusiastic about speaking English. This means that they should refrain from speaking Japanese from the moment they enter the classroom, speak English as frequently as possible, and encourage their classmates to do the same. It will be difficult to pass this class without doing any homework. Students must submit a 100-word absent report for each absence (or three latenesses).

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, short tests, self-evaluations, homework, role-plays, presentations, notes taken during class, a final skit, and class attendance. Each week, students will be expected to 1.) spend one hour speaking with a classmate in English outside of class, and 2.) spend one hour practicing reading English aloud on their own.

### 【テキスト】

Conversation Strategies by David Kehe and Peggy Dustin Kehe. Pro Lingua Associates. ISBN 0-86647-189-8. In addition, students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.

### 【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

In this course I aim to encourage students to become more confident speakers of English. In doing so I use a variety of low-stress activities, usually involving pair or group work, and co-operative (and hopefully fun) activities which require students to use the language they know.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

This is likely to be based on attendance and participation, informal interviews, and homework assignments designed to prepare for or reinforce class activities.

### 【テキスト】

Marathon Mouth Plus. Paul Shimizu & Brent Gaston

### 【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 ジョナサン ハッチャー

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This is an oral English course, so the emphasis will be on speaking and listening skills. There will also be some work on presentation skills. The main aim is, by the end of the course, for students to be able to communicate in English more fluently and naturally. Students will also feel more confident speaking English in front of others, as well as gaining a deeper understanding of general communication skills.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Introduction	17	The Family
2	Ice-Breaking Activities	18	Work
3	Ice-Breaking Activities	19	City Life
4	Pronunciation Focus	20	Beliefs
5	Pronunciation Focus	21	The Future
6	Pronunciation Focus	22	Transportation
7	Pronunciation Focus	23	Vices
8	Vocabulary-Building Activities	24	Marriage
9	Vocabulary-Building Activities	25	Animals
10	Usage Activities	26	Computers
11	Usage Activities	27	The Generation Gap
12	Friends	28	Travel
13	Free Time	29	Textbook Review
14	The Past	30	Final Test Preparation
15	Mi-Term Test Preparation	31	Final Test
16	Mid-Term Test		

### 【履修上の注意事項】

Class is conducted in English.

### 【評価方法】

75% In-class performance, attitude and improvement  
15% Mid-term test  
15% Final test

### 【テキスト】

Communication Strategies 1 by David Paul (Cengage Learning)

### 【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This course is designed to improve students basic listening, speaking and communication skills.

### 【授業の展開計画】

Students will work individually, in pairs and in small groups to complete a variety of listening and speaking tasks taken from individual chapters of the textbook and from other materials. Regular quizzes, tests and oral presentations will be conducted following the completion of tasks.

### 【履修上の注意事項】

Regular attendance is extremely important in this class, and students must bring their textbook with them to class.

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, effort in class, listening tests and oral presentations.

### 【テキスト】

Marathon Mouth Plus, Intercom Press (Available in the campus bookstore)

### 【参考文献】

Students will be expected to download various listening materials from the CALL Lab.

## Oral Communication II

担当教員 グレイ クエン ヒデオ

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

Our goal will be to become better, more confident english speakers.

### 【授業の展開計画】

we will follow the course of the Natural Speaking textbook.

週	授 業 の 内 容
1	Intoduction: Nuts and Bolts
2	Unit 1
3	Unit 2
4	Unit 3
5	Unit 4
6	Unit 5
7	Unit 6
8	Unit 7
9	Unit 8
10	Unit 9
11	Unit 10
12	Unit 11
13	Unit 12
14	Unit 13
15	Unit 14
16	Hugs and Kisses

### 【履修上の注意事項】

Please come to class prepared, ready to engage and deplete of inhibition

### 【評価方法】

Regular class attendance and ACTIVE participation will constitute to the majority of your grade. Additionally, your performance on bi-weekly quizzes and in-class presentations shall play a role.

### 【テキスト】

Natural Speaking

### 【参考文献】

N/A

## Oral Communication II

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This course is designed to help students improve their speaking and listening skills and their overall ability to communicate.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Useful English
3	Introductions
4	What Do You Do?
5	Day to Day
6	Where Are We?
7	Talking about Families
8	What Are You Interested In?
9	Talking about the Past
10	Looking at People
11	This One? That One?
12	I've Got a Feeling
13	Let's Go Shopping
14	That's Entertainment
15	Dreams and Fantasies
16	Interview Tests

### 【履修上の注意事項】

The class will be conducted primarily in English. Students should come to class with their textbooks and prepared to interact with the teacher and other students using English.

### 【評価方法】

Regular attendance is extremely important in this class. Students will be evaluated based on their attendance, class participation and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.

### 【テキスト】

Thompson, P. & Chase, C. Natural Speaking, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)

### 【参考文献】



## Oral Communication II

担当教員 ケヴィン・アントニー・ハント

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This course is designed to improve students' speaking and listening skills as well as their overall ability to communicate effectively in English in real-life situations.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Useful English
3	Self-Introductions
4	What Do You Do?
5	Day to Day
6	Where Are We?
7	Talking about Families
8	What Are You Interested In?
9	Talking about the Past
10	Looking at People
11	This One? That One?
12	I' ve Got a Feeling
13	Let' s Go Shopping
14	That' s Entertainment
15	Dreams and Fantasies
16	Interview Tests

### 【履修上の注意事項】

The class will be conducted primarily in English. Students should come to class with their textbooks and be prepared to interact with the teacher and other students using English.

### 【評価方法】

Regular attendance and punctuality is extremely important in this class. Students will be evaluated on their attendance, class participation and a variety of listening and speaking exams. Students should note that there are no makeup examinations for listening or speaking exams. Missing one listening and one speaking exam will not have any impact on one's final grade.

### 【テキスト】

Thompson, P. & Chase, C. Natural Speaking, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)

### 【参考文献】

An English-Japanese/Japanese- English dictionary (printed or electronic) is recommended. Teacher will provide further reference materials as needed.

## Oral Communication II

担当教員 東恩納 ミシェル

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

The primary focus of this course is for students to increase their ability to converse and communicate in English. Listening, speaking, pronunciation and vocabulary acquisition will be addressed.

### 【授業の展開計画】

Please note: As this is an oral ENGLISH class your instructor will speak only English during the class period. Please use English as much as possible in class. Please do not chat with your conversation partners in Japanese during the class period. Expect to spend several hours OUTSIDE of class time preparing for your midterm and final exams, and doing listening work.

週	授 業 の 内 容
1	Useful English and Introductions
2	Occupations
3	Social Greetings, Schedule, Telling Time, Daily Routines
4	Prepositions of location and Directions
5	Talking About Families
6	Discussing Interests and Leisure Activities
7	Talking About the Past and Sports
8	Midterm Test Review and Exam
9	Describing People
10	Feelings and Emotions
11	Shopping, Containers and Food
12	Talking About Experiences
13	Entertainment, Free Time and Music
14	Medical Terms, Accidents, and Warnings
15	Personal Goals and Dreams
16	Final Test Review and Exam

### 【履修上の注意事項】

#### 【評価方法】

1. Six brief dialog or other oral presentations 30%
2. Midterm test 30%
3. Final test 30%
4. 10 hours listening 10%

If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it.

#### 【テキスト】

Natural Speaking by Paul Thompson & Christopher Chase. Intercom Press

#### 【参考文献】

## Oral Communication II

担当教員 ジョナサン ハッチャー

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

This is an oral English course, so the emphasis will be on speaking and listening skills. There will also be some work on presentation skills. The main aim is, by the end of the course, for students to be able to communicate in English more fluently and naturally. Students will also feel more confident speaking English in front of others, as well as gaining a deeper understanding of general communication skills.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Introduction	17	The Family
2	Ice-Breaking Activities	18	Work
3	Ice-Breaking Activities	19	City Life
4	Pronunciation Activities	20	Beliefs
5	Pronunciation Activities	21	The Future
6	Pronunciation Activities	22	Transportation
7	Pronunciation Activities	23	Vices
8	Vocabulary-Building Activities	24	Marriage
9	Vocabulary-Building Activities	25	Animals
10	Usage Activities	26	Computers
11	Usage Activities	27	The Generation Gap
12	Friends	28	Travel
13	Free Time	29	Textbook Review
14	The Past	30	Final Test Preparation
15	Mid-term Test Preparation	31	Final Test
16	Mid-term Test		

### 【履修上の注意事項】

Class is conducted in English.

### 【評価方法】

75%: In-class performance, attitude and improvement  
 15%: Mid-term test  
 15%: Mid-term test

### 【テキスト】

Communication Strategies 1 by David Paul (Cengage Learning)

### 【参考文献】

## Oral Communication III

担当教員 ケイ クエン ヒデオ

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

to improve students english speaking and listing skills

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1. Intro: Nuts and Bolts
2	2. Intro: Meet and Greet
3	Unit 1
4	Unit 1
5	Unit 1
6	Unit 2
7	Unit 2
8	Unit 2
9	Unit 2
10	Unit 2
11	Unit 3
12	Unit 3
13	Unit 3
14	Unit 3
15	Unit 3
16	Unit 3

### 【履修上の注意事項】

students will be expected to complete all homework assignments prior to the start of class on the day that they are due. This will prove to be exceedingly important as much of our in-class time will be dedicated to group work and discussion

### 【評価方法】

Class attendance and ACTIVE participation in small group discussions will constitute 50-60% of students' final grade. Weekly preparation will add 10-15%.

Final exam/presentation will account for 15-25%, with the balance being construed of weekly in-class presentations. Percentages will fall to the benefit of the student. (i.e. I will focus on your strong suits, to a limited degree).

### 【テキスト】

Widets

### 【参考文献】

N/A

## Oral Communication III

担当教員 -東恩納 ミシェル

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

The course aims to empower students to engage in basic conversations, correctly use in context the basic tense system, modal verbs, and basic speech acts, ask and answer questions on conversational topics, speak continuously in a short monologue on personal and everyday topics, be able to give their opinions, become aware of the effect of phonological features, improve their pronunciation, intonation, and rhythm and perceive, comprehend and respond where appropriate to basic spoken English.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Getting Started Personal Information
2	Asking for Information
3	Describing Things
4	Making Requests
5	Giving Instructions
6	Asking For Permission
7	Making Excuses and Giving Reasons
8	Midterm Test Review and Exam
9	Giving Opinions
10	Comparing Things
11	Giving Advice and Making Suggestions
12	Talking About Experiences
13	Inviting
14	Making Predictions
15	Personal Goals and Dreams
16	Final Test Review and Exam

### 【履修上の注意事項】

All notes for class will be taken by students provided orally by instructor.

### 【評価方法】

1. Six brief dialog or other oral presentations 30%
2. Midterm test 30%
3. Final test 30%
4. 10 hours listening 10%

If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it.

### 【テキスト】

Fifty-Fifty Book Two Third Edition

### 【参考文献】

1. Randall's Cyber Listening Lab <http://www.esl-lab.com/>
2. ELLLO <http://www.ello.org/english/home.htm>
3. VOA <http://www.voanews.com/english/news/>
4. National Geographic <http://www.nationalgeographic.com/>

## Oral Communication III

担当教員 一橋大学 英語学専攻 教授 藤田 隆

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Week 1: 7 April. Introductions, Textbook Unit 0.
2	Week 2: 11 & 14 April, Unit 1 'Have you two met?'
3	Week 3: 18 & 21 April, Unit 2 'You must be excited'
4	Week 4: 9 & 12 May, Unit 3 'Going Places'
5	Week 5: 16 & 19 May, Unit 4 'I love that!'
6	Week 6: 23 & 26 May, Unit 5 'Why?'
7	Week 7: 30 May & 2 June, Unit 6 'What's it like there?'
8	Week 8: 6 & 9 June, Review Unit 1
9	Week 9: 13 & 16 June, Unit 7 'Do you remember when...?'
10	Week 10: 20 & 23 June, Unit 8 'Making Plans'
11	Week 11: 27 & 30 June, Unit 9 'What should I do?'
12	Week 12: 4 & 7 July, Unit 10 'Tell me a story'
13	Week 13: 11 & 14 July, Unit 11 'In my opinion'
14	Week 14: 18 & 21 July, Unit 12 'Looking Ahead'
15	Exam Week 25-29 July.
16	Make Up Classes in August.

### 【履修上の注意事項】

#### 【評価方法】

A Mid Term test (Oral and written)  
 A Final Test (Oral and written)  
 Participation in Class

#### 【テキスト】

Marc Helgesen, Steven Brown & Thomas Mandeville English Firsthand 2 New Gold Edition. Pearson Longman 2008

#### 【参考文献】

## Oral Communication III

担当教員 ジョーン ターバート

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

The class will include a variety of pair / group / class activities to develop communication skills. Topics will include: giving presentations, pair and group discussions and studying key phrases that are used in daily conversation.

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

The final grade will be based on quizzes, attendance, participation, pair / group work, presentations and homework assignments related to class activities. Students will be expected to use English as much as possible in class.

## 【テキスト】

There is no assigned textbook for this class. The instructor will provide materials to be used in class.

## 【参考文献】

## Oral Communication III

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

The aim of this course will be for students to improve their ability to communicate in English. In order to maximize speaking time, students will do most of their work in pairs or small groups. I expect students to refrain from speaking in Japanese and to speak English as often as possible.

### 【授業の展開計画】

Classes will consist of lectures and so-called "language gap" activities, which will take place in pairs or small groups. The group activities depend on active student participation, so I expect students to be enthusiastic about speaking English.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, self-introductions
2	Introducing others, group skit (using rejoinders and follow-up questions)
3	How to describe a scene (confirmation questions, clarifications)
4	Drawing and explaining pictures—pair work (eliciting confirmation)
5	Drawing and explaining pictures—pair work
6	Giving directions in English (echoing instructions)
7	Giving directions in English—role play
8	How to tell a story (soliciting details)
9	Telling stories—in pairs
10	Telling stories—in pairs
11	Preparation for group skits (expressing opinions, making a group discussion)
12	Small group skit
13	Translation role-play—in groups of three (keeping or killing the conversation)
14	Introduction to speech
15	Speech preparation, review for final exam
16	Final Exam (on the textbook)

### 【履修上の注意事項】

I expect students to be enthusiastic about speaking English. This means that they should refrain from speaking Japanese from the moment they enter the classroom, speak English as frequently as possible, and encourage their classmates to do the same. It will be difficult to pass this class without doing any homework. Students must submit a 100-word absent report for each absence (or three latenesses).

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, short tests, self-evaluations, homework, role-plays, presentations, notes taken during class, a final skit, and class attendance. Each week, students will be expected to 1.) spend one hour speaking with a classmate in English outside of class, and 2.) spend one hour practicing reading English aloud on their own.

### 【テキスト】

Conversation Strategies by David Kehe and Peggy Dustin Kehe. Pro Lingua Associates. ISBN 0-86647-189-8. In addition, students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.

### 【参考文献】



## 観光英語

担当教員 東 菜美

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

## 【授業のねらい】

英語の一般的な能力だけでなく、観光業界の専門用語や独特の言い回しを学び、海外旅行や観光事業に従事する上で役に立つ英語の能力を身に付ける。

## 【授業の展開計画】

毎回、観光の場面やテーマを設定し、観光産業の基本的な知識を学習する。観光に関する用語や表現の習得、その他、多文化や国際的なマナー等を学びながら実務レベルの英語運用能力を高める。

週	授 業 の 内 容		
1	ガイドダンス、オリエンテーション、観光概論		
2	ホテル、沖縄の観光	テキスト：第4章（宿泊施設）	第7章（理解度チェック）
3	ホテル	テキスト：第4章（宿泊施設）	第7章（理解度チェック）
4	レストラン	テキスト：第4章（宿泊施設）	第7章（理解度チェック）
5	航空	テキスト：第3章（交通機関）	第7章（理解度チェック）
6	観光、ツアー	テキスト：第3章（交通機関）	第7章（理解度チェック）
7	中間試験、観光英検過去問題・模擬問題	テキスト：第7章（理解度チェック）	
8	世界の乗り物	テキスト：第3章（交通機関）	第7章（理解度チェック）
9	世界の観光地	テキスト：第2章（観光地・観光ポイント）	第7章（理解度チェック）
10	世界の料理、日本の料理	テキスト：第2章（観光地・観光ポイント）	第7章（理解度チェック）
11	日本の祝日	テキスト：第2章（観光地・観光ポイント）	第7章（理解度チェック）
12	出入国審査、税関検査	テキスト：第6章（出入国手続）	第7章（理解度チェック）
13	ショッピング、通貨	テキスト：第6章（出入国手続）	第7章（理解度チェック）
14	掲示用語	テキスト：第5章（現地旅行会社）	第7章（理解度チェック）
15	世界遺産	テキスト：第5章（現地旅行会社）	第7章（理解度チェック）
16	期末試験		

## 【履修上の注意事項】

積極的に参加し取り組むこと。

## 【評価方法】

講義における参加、貢献度と中間試験、学期末試験の結果を総合的に評価する。

## 【テキスト】

「2011 旅行英語」 ジェイティービー能力開発

## 【参考文献】

沖縄県観光学習教材ワークブック 沖縄県観光商工部観光振興課

## 基礎演習 I

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

「読む」「話す」「調べる」「書く」の基礎能力を培う。プリントを用いて生きた文章のポイントを口述し、原稿用紙(400字)による実作練習を繰り返す。思ったようには書けないのが当たり前で、「書く」事には技術が必要です。誤字のない、理解しやすい簡潔な表現を目指します。夏休みに、ゲーテの『ファウスト』を読み、レポートを作成する。

### 【授業の展開計画】

- 1週： 講師と受講生の自己紹介、授業のガイダンス
- 2週： 原稿用紙の使い方、
- 3週： 表現空間－接続詞、文の長さ－「が」
- 4週： 文末表現、全称的判断
- 5週： 比喻、呼応
- 6週： 語句の係り受け、
- 7週： 用語と語感、
- 8週： 同語の反復、
- 9週： 句読点
- 10週： 紛らわしい語－自動詞・他動詞
- 11週： 漢字とかな
- 12週： 簡潔な表現
- 13週： 翻訳調
- 14週： 助詞
- 15週： 前期のまとめ

### 【履修上の注意事項】

原稿用紙(400字)を用意してください。鉛筆書きで、Bか2Bを使ってください。10回ほどの実作練習がありますが、提出期限を守ることを。

### 【評価方法】

出席を確認します。10回前後の原稿提出があります。出席と仕事の量で評価します。

### 【テキスト】

プリントを配布します。  
ゲーテ『ファウスト』第一部、第二部、池内紀訳 (集英社文庫)

### 【参考文献】

本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)

## 基礎演習 I

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

アカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指します。

### 【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 文章トレーニング (1) ことばとは・文章とは・アカデミックレポートとは
- 第5週 文章トレーニング (2) アカデミックレポートの形式 1
- 第6週 文章トレーニング (3) アカデミックレポートの文章 2
- 第7週 文章トレーニング (4) アカデミックレポートの文章 1
- 第8週 文章トレーニング (5) アカデミックレポートの文章 2
- 第9週 文章トレーニング (6) アカデミックレポートの文章 3
- 第10週 課題発表 1
- 第11週 文章トレーニング (7) アカデミックレポートの文章 4
- 第12週 文章トレーニング (8) アカデミックレポートの文章 5
- 第13週 文章トレーニング (9) アカデミックレポートの文章 6
- 第14週 文章トレーニング (10) アカデミックレポートの文章 7
- 第15週 課題発表 2
- 第16週 まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること
- 5) 宿題の提出期限を厳守すること

### 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

### 【テキスト】

プリンと教材を準備する

### 【参考文献】

講義の中でそのつど紹介する。

## 基礎演習 I

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。

### 【授業の展開計画】

前半は、カードの使い方、論の組み立て方などを、ディスカッションや作文を通して練習する。後半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。（レポートの提出については、前期前半も同じ。）授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

レポート：60%、発表・発言：40%

### 【テキスト】

プリント教材を用いる。

### 【参考文献】

『知的生産の技術』梅棹忠夫、岩波新書

『日本語の作文技術』本多勝一、朝日文庫

その他、適宜紹介する。

## 基礎演習 I

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

レポートの作成・発表、スピーチ、ディベート等の活動を通して日本語による文章力、発表力の向上を目指します。

### 【授業の展開計画】

コース前半は日本語によるグループ発表、個人スピーチ、後半は英語の個人スピーチ、ワークショップを行います。

### 【履修上の注意事項】

無断欠席・遅刻をしない（遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします、1/3以上欠席の場合単位は認められません）

### 【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）、ブックリポート、グループレポート、グループ発表、個人発表を総合的に評価します。

### 【テキスト】

講義の中で適宜配布します。

### 【参考文献】

授業の中で紹介します。

## 基礎演習 I

担当教員 尚 真貴子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

「読む」「書く」「話す」「聞く」の四技能の実践的な練習を通じて、大学で学ぶための必要な「日本語力」の育成を目標とする。個人発表、グループ発表の際には、レジユメを準備し内容を簡潔に明瞭にまとめ、分かりやすく話す。また、指定されたテキストを読み、それぞれのグループで大意とテーマをまとめ、発表し、それをもとに、全員でディスカッションを行う。

### 【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）に関しては、別に詳しいシラバスを作成し最初の授業で配布する。

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視する。依って出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。

### 【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

### 【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

## 基礎演習 I

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この演習と後期の基礎演習Ⅱを通して大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。前期の演習Ⅰでは、新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでその内容について全員でディスカッションする。ディスカッションを通して、論点の捕らえ方、要点の纏め方、論理的な意見の述べ方などを練習する。続いて、各自興味のあるテーマを選んで調べ、その内容を口頭で発表する。発表した内容はレポートにまとめ、後日提出する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1回 オリエンテーション
2	2回 テキストの読み合わせと自己紹介の仕方
3	3回 テキストの読み合わせと文章の読み方
4	4回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んだでのディスカッションー1
5	5回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んだでのディスカッションー2
6	6回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んだでのディスカッションー3
7	7回 個人発表の準備（レジユメの書き方、発表の仕方、レポートのまとめ方など）
8	8回 個人発表ー1
9	9回 個人発表ー2
10	10回 個人発表ー3
11	11回 個人発表ー4
12	12回 個人発表ー5
13	13回 個人発表ー6
14	14回 個人発表ー7
15	まとめ（授業評価を含む）
16	レポート提出

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、欠席をしないこと
- (2) テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書を持ってくること
- (3) 指定された課題を必ず読み、質問あるいは意見をもって授業に臨むこと
- (4) 授業中に私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席率、課題、発表、レポート、およびクラス・ディスカッションへの貢献度を見て総合的に評価する。

## 【テキスト】

選定中

## 【参考文献】

個人の発表テーマに応じて適宜紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

夏休みのレポートを基に口頭発表を行う。最初に発表予定を決める。発表者はレジュメを用意して、予定に従って口頭発表をする。『ファウスト』に含まれるヨーロッパのモチーフやテーマ、ゲーテやその時代の文化、芸術などを発表をとして触れる。またそれが、現代を生きる私たちの問題として認識できることを願う。

### 【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、発表予定の作成、
- 2週： レジュメの作り方
- 3週： 口頭発表(2名)
- 4週： 同上
- 5週： 同上
- 6週： 同上
- 7週： 同上
- 8週： 同上
- 9週： 同上
- 10週： 同上
- 11週： 同上
- 12週： 同上
- 13週： 同上
- 14週： 同上
- 15週： 同上、最終レポートの提出

### 【履修上の注意事項】

『ファウスト』が難解であることは周知の事実です。難解であればこそ、そのなかでいろいろと考え、考えたことを積極的に発言して、授業に参加してください。  
最終レポートは、1月中に提出してください。

### 【評価方法】

出席を確認します。提出されたレポートと授業への参加量で判断します。

### 【テキスト】

ゲーテ『ファウスト』、第一部、第二部、池内紀訳、(集英社文庫)

### 【参考文献】

レポート作成の際に必要な文献は、個々のテーマに即した文献を、図書館などで調べてください。



## 基礎演習Ⅱ

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

前期の基礎演習Ⅰに続き、大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。後期はグループ発表形式を取り、特定のテーマ（例：早期英語教育、バイリンガル教育）について賛否の立場から意見を述べる練習をする。テーマはグループごとに定めることとし、発表するグループはそれぞれの論点を1000字程度にまとめたレジュメと参考文献リスト・資料をゼミのメンバー全員分準備し、配布する。発表後は各自調べた内容をレポートに纏め、提出する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1回 夏休みについての報告
2	2回 テキストの読み合わせ
3	3回 テキストの読み合わせ
4	4回 テキストの読み合わせ
5	5回 意見の述べ方ー1（レジュメおよびレポートの書き方）
6	6回 意見の述べ方ー2（論点を押さえた意見の述べ方）
7	7回 グループ発表ー1
8	8回 グループ発表ー2
9	9回 グループ発表ー3
10	10回 グループ発表ー4
11	11回 グループ発表ー5
12	12回 グループ発表ー6
13	13回 グループ発表ー7
14	14回 グループ発表ー8
15	まとめ（授業評価を含む）
16	レポート提出

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書を持ってくること
- (3) グループ発表のテーマについては、発表者以外も必ず調べ、意見をもって授業に臨むこと
- (4) 授業中に私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席率、課題、発表、レポート、および討論への貢献度などを見て総合的に評価する。

## 【テキスト】

選定中

## 【参考文献】

各グループの発表テーマに応じて適宜紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。

### 【授業の展開計画】

前半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。

後半は、全員がそれぞれのテーマで比較的長いレポート（論文形式）を仕上げることを目指し、アウトラインのたて方、資料の収集、個人発表などを中心として授業を進めていく予定。

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

前半の作文：30%、発表・発言：20%、個人発表10%、自由レポート：40%

### 【テキスト】

プリント教材を用いる。

ただし、前半は、テキストを使用する予定。

### 【参考文献】

『知の技法』小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会  
その他、適宜紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

前期の「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学の授業や研究発表の場で必要な読解能力、文章表現能力、口頭発表能力を培う。指定されたテキストを読み、グループで分担し内容を要約、レジュメを作成して発表する。また、個人で興味あるテーマを選んで調べ、比較的長いレポートを仕上げることを目指し提出する。

### 【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、別に詳しいシラバスを作成し最初の授業で配布する。

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視する。依って出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。

### 【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

### 【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

和文の学術論文を読み、内容を要約し、発表する活動を通して、日本語の「読む」「書く」「話す」技能の更なる向上を図ります。また、英語による授業に対応できるよう英語によるコミュニケーション活動も取り入れます。

### 【授業の展開計画】

前半は、日本語によるスピーチ、グループレポート作成及び発表、後半はパワーポイントを使用した英語スピーチを練習します。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席・遅刻をしない（遅刻2回で欠席1回とみなします、1/3以上欠席の場合単位は認められません）
- (2) 課題は期限内に提出すること

### 【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）、スピーチ、グループレポート、ブックリポートを総合的に評価します

### 【テキスト】

講義中に適宜配布します

### 【参考文献】

講義中に連絡します

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基礎演習Ⅰで学習したことを前提に、さらにアカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指すとともに、各自レポート作成を行う。

### 【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 文章トレーニング (1)
- 第5週 文章トレーニング (2)
- 第6週 文章トレーニング (3)
- 第7週 文章とトレーニング (4)
- 第8週 文章トレーニング (5)
- 第9週 文章トレーニング (6)
- 第10週 課題発表1
- 第11週 文章トレーニング (7)
- 第12週 文章とトレーニング (8)
- 第13週 文章トレーニング (9)
- 第14週 文章トレーニング (10)
- 第15週 課題発表2
- 第16週 まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること
- 5) 宿題の提出期限を厳守すること

### 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

### 【テキスト】

プリント教材を準備します。

### 【参考文献】

授業の中でそのつど紹介します。

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an "English only" policy.

### 【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation

### 【テキスト】

Developing Academic Writing Skills. Robyn Najar & Lesley Riley.

### 【参考文献】

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

The seminar will be conducted as a workshop: students will be provided a large selection of reading materials from which to choose, be given ample time to read during class, and be asked to share their reactions to various books. Through extensive reading, students should develop greater independence and more confidence in their English reading abilities.

### 【授業の展開計画】

As explained above, the seminar will be conducted in a workshop format. This means there will be few if any formal lectures. Instead, we will have reading time, group and pair discussions, and occasional large group discussions. In addition, students will be asked to present a book to the class, make a poster in a group, and perform one of the short plays that they read.

### 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to do an extensive amount of reading, especially in English. Since the focus is on extensive reading, students are strongly encouraged to choose books and materials that they can easily comprehend. Books that seem too easy are far preferable to books that seem too difficult.

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, journals, and how much reading they do. In general, students must read more than 35 pages / week to receive a passing grade (可); more than 45 pages / week to receive a 良; and more than 55 pages / week to receive a 優. Three latenesses will count as one absence. Students should read 15 extra pages for each absence.

### 【テキスト】

Students will not be required to buy any textbooks but will be allowed to borrow graded readers and other books from the instructor.

### 【参考文献】

Students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講では、レポートおよび論文の書き方の基礎的な部分を学習する。文章力を養う学習法は多種多様に存在するが、与えられた時間は週一回のみである。限られた時間内での効果的な作業は必至であるため、以下の点を中心に授業の展開をはかる。目標と方法の各数字は対応する。

目標： ①即断力 ②分析力 ③要約力 ④文章力

方法： ①即席スピーチ ②模写トレーニング ③つまみ読み ④文章構成トレーニング

### 【授業の展開計画】

テキストの分担発表と並行して、以下のトレーニングも行う。

- ・即席スピーチ (extemporaneous speech)
- ・書評の練習
- ・無声映画の文章化
- ・絵の分析と説明力のトレーニング
- ・企業分析とプレゼンテーション

\*\*\* 選定するテキストにより、内容が多少変更する場合もある \*\*\*

### 【履修上の注意事項】

即席スピーチは基本的に毎回行います。小課題もほぼ毎回あります。基礎演習I・IIの履修済みが前提。それ以外は特になし。

### 【評価方法】

①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④学期末レポート

### 【テキスト】

選定中につきTBA。

### 【参考文献】

三森ゆりか 2003 『論理的に考える力を引き出す』 白水社 ¥1,575.

三森ゆりか 2006 『外国語で発想するための日本語レッスン』 白水社 ¥1,575.



## 基礎演習Ⅲ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

This course is designed to assist students in improving their ability to choose a research topic, gather information from libraries, the Internet and other sources, analyze that information, present it in a written English report and then make an oral presentation based on that report. This first half of the course will give more attention to developing English research and writing skills.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Registration and Course Introduction
2	Student Self Introductions
3	Introduction to research methods
4	Introduction to Rashamon and In a Grove
5	Kurosawa's Rashamon
6	Group discussions of Rashamon
7	Submission of Rashamon Research Paper first draft
8	Return of Rashamon Research Paper first draft
9	Submission of Rashamon Research Paper final draft
10	Selection of Paper Topics
11	Library Search Exercise
12	Library Search Check
13	Submission of Research Plan
14	Individual Consultations
15	Submission of Introduction
16	Return of Introduction

## 【履修上の注意事項】

Registration for this course is based on assignment by student number.

## 【評価方法】

Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework, and class participation. Students will also be evaluated on their attendance and their ability to meet deadlines.

## 【テキスト】

There is no text for this class.

## 【参考文献】

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 山本 直子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

エッセイの書き方とプレゼンテーションの基礎を学習する。英語のライティングによって、パラグラフの成り立ちやエッセイの構成を学び、エッセイを書く練習をする。また、スピーチを行いプレゼンテーションの訓練を行う。

### 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～15週

下記の項目にそって英文ライティングの基礎を学び、エッセイを書く練習をする。また、授業中にスピーチを行う。

1. The Structure of a Paragraph
2. The Structure of an Essay
3. Introductions and Conclusions
4. Opinion Paragraphs
5. Comparison / Contrast Paragraphs
6. Problem / Solution Paragraphs

第16週 学期末テスト

### 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業には英和辞典、和英辞典を持ってくること。

### 【評価方法】

学期末テスト50%、提出課題20%、発表20%、出席・授業参加10%

### 【テキスト】

\_Success with College Writing\_ (Macmillan Languagehouse)

### 【参考文献】

授業中に紹介する。

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 李 イニッド

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

The aim of this course is to provide guidelines, strategies and practice in writing term papers and summaries. Students will learn how to prepare for a term paper through a series of individual and group activities.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Prewriting: Topics
3	Prewriting: Sources
4	Library workshop (1)
5	Prewriting: Taking notes
6	Library workshop (2)
7	Organizing your paper: Thesis statement
8	Organizing your paper: Outline
9	Writing the first draft: Title & style
10	INTRODUCTION
11	BODY (1)
12	BODY (2)
13	CONCLUSION
14	Avoiding plagiarism
15	Evaluating and rewriting
16	Final draft

## 【履修上の注意事項】

No particular requirements.

## 【評価方法】

Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Term Paper (40%).

## 【テキスト】

To be announced in class.

## 【参考文献】

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

This course is designed to assist students in improving their ability to choose a research topic, gather information from libraries, the Internet and other sources, analyze that information, present it in a written English report and then make an oral presentation based on that report. This second half of the course will give more attention to developing oral English presentation skills.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Introduction and Registration
2	Individual Consultations
3	Submission of Introduction and Body
4	Return of Draft
5	Individual Consultations
6	Submission of First Full Draft
7	Return of Draft
8	Submission of Second Draft
9	Return of Draft
10	Individual Consultations
11	Submission of Final Draft
12	Oral Presentations Preparation Day
13	Oral Presentations
14	Oral Presentations
15	Oral Presentations
16	Oral Presentations

## 【履修上の注意事項】

Registration for this course is based on assignment by student number.

## 【評価方法】

Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework and class participation. Students will also be evaluated based on their attendance and their ability to meet deadlines

## 【テキスト】

There is no text for this class.

## 【参考文献】

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 李 イニッド

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

This course focuses on skills and practice in giving oral presentations. Students will acquire basic presentation skills through a variety of individual and group activities.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Review; abstract writing
2	Proofreading: self and peer editing
3	Mini presentations
4	The physical message (1)
5	" (2)
6	" (3)
7	The visual message (1)
8	" (2)
9	The story message (1)
10	" (2)
11	" (3)
12	" (4)
13	Final performance
14	Oral presentation (1)
15	" (2)
16	" (3)

## 【履修上の注意事項】

Students who enroll in this course must have taken 基礎演習Ⅲ from the same instructor.

## 【評価方法】

Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Oral Presentation (40%).

## 【テキスト】

To be announced in class.

## 【参考文献】

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 山本 直子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

自分で研究テーマを探し、文献を読んでテーマを様々な角度から考察した上で、自分の考えを文章にまとめるという主体的な学習が大学では求められる。この授業では、テーマの探し方、リサーチの仕方、アウトラインの作り方、論文の書き方の基礎を学び、実際に自分で小論文を書く練習をする。また、自分で選んだテーマについて各自が発表し、クラスで討論を行い、それぞれのテーマについてより深く考察できるようにする。

### 【授業の展開計画】

第1週～7週

下記の項目について学ぶ。

1. 調査の仕方・文献の探し方
2. 論文の書き方（論文の構成、引用や註について）
3. 研究テーマの設定
4. アウトラインの作成
5. 口頭発表の仕方

第8週～16週

各自が自分で選んだテーマについて口頭発表を行う。各発表の後に、質疑応答、討論の時間を設ける。自分の選んだテーマについて小論文を書き、学期末に提出する。

### 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
3. 提出課題の締め切りは厳守すること。

### 【評価方法】

小論文50%、提出課題20%、発表20%、出席・授業参加10%

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献】

授業中に紹介する。

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

英語による簡単な文章構成トレーニングが中心である。英語が第一言語であれ第二言語であれ、基礎演習Ⅲとは異なる言語での発想の展開を図るため、目的地は同じでも道順が異なる。よって、基本的にはもう一度スタート地点に戻っての再出発という感は否めない。ややきついかもしれないが、最低限の英語能力の体得は、本学科の学生には必須であると判断する。

### 【授業の展開計画】

詳細はTBA。グループ発表が中心となります。

### 【履修上の注意事項】

なし。尚、受講生の興味関心を尊重し、授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。この点は基礎演習Ⅲも同様である。

### 【評価方法】

①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④学期末レポート

### 【テキスト】

現在選定中。TBA.

### 【参考文献】

大串亜由美 2008『研修女王の最強3分スピーチ』ダイヤモンド社. ¥1,429(税別)  
倉島保美 2006『英語プレゼンテーションの技術』日本経済新聞社. ¥2,200(税別)

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an "English only" policy.

### 【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation.

### 【テキスト】

Developing Academic Writing Skills. Robyn Najjar & Lesley Riley.

### 【参考文献】



## 基礎演習Ⅳ

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

The focus of this semester will be writing a five-page academic paper in English on a novel or collection of short stories written in Japanese. Working in groups of four or five, students will discuss and research various contemporary Okinawan authors. Students will then write an academic paper on the specific book to which they have been assigned. Students will be guided through the entire process of writing their papers.

## 【授業の展開計画】

Although there will be some formal lectures, most of the class will be conducted in a workshop format. Students will work in small groups and in pairs as they work on their papers.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to the course, deciding on topics and groups
2	Lecture: Writing an Academic Paper
3	Short test on books (in English), Group discussion
4	Lecture: Elements of Fiction (plot, character, point of view, theme, setting, etc.)
5	Group Work: making a poster (introducing your group's author)
6	Poster Presentations
7	Outlines Due, discussion of outlines
8	Lecture: Preparing the Works Cited page
9	Pair check and revision
10	Papers due before the winter break
11	Individual conferences, revision of papers
12	Individual conferences, revision of papers
13	Lecture: Preparing your PowerPoint Presentation
14	Oral presentation of papers (PowerPoint presentations)
15	Oral presentation of papers (PowerPoint presentations)
16	Final revisions due / evaluations / discussion of course

## 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to do an extensive amount of reading in Japanese and a lot of writing in English. Since students will be writing in English about novels and criticism that they have read in Japanese, they should have a good Japanese-English dictionary with them at all times.

## 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, a five-page academic paper, and a PowerPoint presentation. Students must attend at least 70% of all classes to receive a passing grade (可); more than 80% to receive a 良; and more than 90% to receive a 優. Three latenesses will be counted as one absence; however, a lateness of more than twenty minutes will count as an absence.

## 【テキスト】

Students should purchase a copy of the novel to which they have been assigned.

## 【参考文献】

Students should bring an electronic dictionary and a B5 notebook to every class.

## 言語学概論 I

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

言語学の歴史は古い。古いということは様々な学派や理論があるということである。そこで言語学概論 I では、言語学を概観するアプローチを取り、ことばの学習上、より重要と思われるトピックを中心に講義を行う。学問的な重い響きを払拭するため、言語学というより「ことば学」として捉えたい。ことばを学習・習得できるのは人間だけであるという点で、「人間学」の基本と捉えても差し支えない。そして、ことばを知ることが、文学・教育・人類学などの他分野・日常生活に如何に直結しているかが伝われば、担当者として至福である。

### 【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。  
関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。

### 【履修上の注意事項】

特になし。遅刻厳禁。

### 【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト ④授業への貢献度 ⑤発表(仮)

### 【テキスト】

現在選定中。開講時に指示する。

### 【参考文献】

大津由紀雄(編) 2009『はじめて学ぶ言語学』京都：ミネルヴァ書房。 ¥2,800。  
瀬田幸人・他(編) 2010『入門 ことばの世界』東京：大修館書店。 ¥1,890。

## 言語学概論Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

言語学概論Ⅰでは言語学を概観することを狙いとした。そこで、言語学概論Ⅱでは一步踏み込んだアプローチを試みる。音韻論・形態論・統語論・意味論などの導入・説明・理解の後に、琉球沖縄という地理的特徴を活かした考察を試みたい。つまり、社会言語学・言語人類学・危機言語などという、隣り合わせの言語事情を考えてみたい。ことば学の視点から、琉球沖縄という地理的空間の魅力・意義・現状も確認してみたい。ただし、選定するテキストにより内容が多少変更する場合もある

### 【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。  
関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。

### 【履修上の注意事項】

特になし。遅刻厳禁。

### 【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト ④発表 ⑤授業への貢献度、等

### 【テキスト】

現在選定中。開講時に指示する。尚、図書館の「指定図書」も参考にして下さい。

### 【参考文献】

S・ロメイン 1997『社会の中の言語』東京：三省堂。 ¥2,800。  
C・アジェージュ 2004『絶滅していく言語を救うために』東京：白水社 ¥7,140(英語版2009に挑戦して欲しい)

## 国際コミュニケーション論

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

国際ビジネスにおける成功と失敗の要因として、異文化理解が話題になることが少なからずある。知識・経験が十分にある場合でも、それを上手く伝えられなければコミュニケーションは可能とならない。2010年度3月卒業予定の4年生の就職率が、全国平均で約30%も激減したという報告もある。特に理工系学部でその傾向は著しかった。企業側の意見では「人とコミュニケーションを取れる人材が少ない」との旨であった。人よりもコンピュータと向き合うことを好む人間が増えており、そうした「内向き」型文化は海外留学率の激減にも現れている。本講義ではこうした問題点に触れつつ、国際社会の在り方をコミュニケーションの視点から再考する。

### 【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト ④発表（予定）

### 【テキスト】

現在選定中につきTBA。開講時に指示します。

### 【参考文献】

亀田尚己 2009『国際ビジネスコミュニケーション再考』東京：文眞堂。¥3,150.

R. Scollon & S. W. Scollon. 2000. Intercultural Communication. Oxford: Blackwell. (図書館に所蔵有)

## コミュニケーション概論

担当教員 兼本 円

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

日常の様々な事象がコミュニケーションとどの様に関わっているかを最近のコミュニケーション学の成果を概観して把握する。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

テキストに記されている事柄を学ぶだけではなく、それを応用する姿勢が重要です。自問自答するのではなく、授業中に教師に質問して知識を確かなものにして下さい。

### 【評価方法】

毎回の授業の出席率、2回の試験の結果、クイズ（随時）、授業における積極性を総合して評価します。

### 【テキスト】

「コミュニケーション学—その展望と視点」

### 【参考文献】

授業で随時紹介する。

## CALL 教授法

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、英教法 I 及び英語教材研究では扱えない CALL 機器を活用した教授実践を行います。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。先ず、CALL 教室の可能性を一斉授業の中で確認します。次に、教師卓の機器使用法を受講者一人ひとりに demo を通じて伝えます。最後に、受講生各自が教師となり、CALL 機器を使用した授業を行います。その際、CALL 教授にふさわしい教材作成が必要になります。もつとも、教材開発までは求めず、市販の教材を加工して教育機器の長所を導き出す工夫を目指します。

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡ください。
- ③ 課題は、期限までに毎時完成させましょう。
- ④ 携帯電話は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

## 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢
- ⑦ 教材作成
- ⑧ CALL 教授実践

## 【テキスト】

講義内で連絡します。

## 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 時事英語

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

This class will be designed and redesigned through a process of negotiation based on students priorities, unfolding events in Okinawa, Japan and the world, and previous media projects which I have been involved with in Okinawa. Possibilities are likely to include an examination of reports into the recent Tohoku catastrophe, and appropriate courses of action to take in response, how controversial events are reported in Okinawa, and a group reporting project.

### 【授業の展開計画】

Course structure will be organised after an initial needs assessment.

### 【履修上の注意事項】

While use of English may be encouraged in this class, this will only be within meaningful contexts. In other words, where Japanese explanation and discussion lead to greater understanding of issues involved, these will be most welcome.

### 【評価方法】

Evaluation will also be negotiated with the class, but is likely to include attendance, group work, and a final report.

### 【テキスト】

Students are not required to buy a textbook, but please read the newspapers and watch TV news!

### 【参考文献】

## Special Oral Topics

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

This class is designed to provide an opportunity for students to develop their skills in using English in situations relevant to travel and tourism. Emphasis will be placed on tourism in Okinawa and on developing the skill to make presentations about tourism related sites and issues.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Registration and Course Introduction	17	World Heritage Sites
2	Survey of Tourism Issues	18	World Heritage Sites in Okinawa
3	Mapping Okinawa and the World	19	World Heritage Group Presentations
4	Mapping Okinawa and the World	20	Travel Itinerary Planning
5	Mapping Test	21	Travel Itinerary Planning
6	Tourism in Okinawa Part 1	22	Travel Itinerary Planning
7	Tourism in Okinawa Part 2	23	Travel Itineraries Presentations
8	Tourism in Okinawa Part 3	24	Travel Itineraries Presentations
9	Tourism in Okinawa Part 4	25	Building Tourism Vocabulary
10	Tourism in Okinawa Part 4	26	Building Tourism Vocabulary
11	Tourism in Okinawa Test	27	Tourism English Proficiency Exam
12	Okinawa Domestic Flights and Terminals	28	Tourism Job Search Preparations
13	Okinawa International Flights and Trmns	29	Tourism Job Search Presentations
14	Reading E-Tickets	30	Tourism Job Search Presentations
15	Reading E-Tickets	31	Final Exam
16	E-Ticket and Terminals Test		

## 【履修上の注意事項】

This is not a lecture class. Students should be prepared to participate in classroom exercises using English.

## 【評価方法】

Students will be evaluated based on their attendance, participation in class, oral presentations, homework and listening tests.

## 【テキスト】

Teaching materials will be provided by the instructor.

## 【参考文献】

Students will be expected to find information from relevant websites and other sources.



## 専門演習 I

担当教員 尚 真貴子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本語学習者は目的や背景等も多様化しており、学習者のニーズに答えられる教員の養成が必要とされている。そこで第二言語としての日本語の習得研究と日本語教育について、色々なテーマを取り上げていく。さらに言葉としての日本語だけでなく、社会・心理的側面、言葉の扱い方、教え方及び日本語学習者にとって役立つ課題を捉えていく。

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

## 【テキスト】

テキストはプリント教材を準備する。

## 【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

## 専門演習 I

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

「左」の語源は何だろう。アイルランド英語では back が to the west/westwards 「西へ」を意味します。「ゴースト」(ghost) という語のルーツは何だろう。「映画」も「ホームラン」も「歯」も全て「一本」と数えるのは何故なのか。人間が空間内で生活している事実は、実は意識してみてはじめて分ることかもしれない。一方、人間が使用する言語が、空間をはじめとする実生活での様々な出来事と深く関連していることも、ことばを異なる角度から眺めてみてはじめて理解できることかもしれない。本演習ではこうしたことばの再認識を、言語人類学を立脚点として取り組むことを狙いとする。ことばの理解は人間理解、同文化・異文化理解です。

## 【授業の展開計画】

グループ発表を毎回行う。

## 【履修上の注意事項】

特になし。言語学の専門知識は無用であるため、どなたでも参加できます。むしろ、この授業を通して、ことばへの関心を深めてもらうことを狙いとしています。

## 【評価方法】

①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度

## 【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

## 【参考文献】

今井むつみ 2010『ことばと思考』東京：岩波新書。 ¥800+税

井上京子 1998『もし「右」や「左」がなかったら—言語人類学への招待—』東京：大修館書店。 ¥1,500+税

## 専門演習 I

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

This course helps students improve their understanding of global issues facing the world today. Some of the issues to be dealt with are the environment, education, human rights, war and peace, economic justice, religion, cultural difference and global systems. It is also designed to help students improve their skills in conducting research and presenting their research in written reports and oral presentations. Students are given considerable freedom in choosing their topics. Teacher training students are encouraged to relate their topics to education.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Mapping the World Exercise
3	Research Topics, Resources and Methods
4	World Views (Small Group Meeting)
5	Fieldwork and Group Consultations
6	Global Systems and Organizations (NGOs etc.) (Group Research Plans)
7	The Environment
8	War and Peace, Economic Justice, Human Rights
9	Fieldwork and Group Consultations
10	Group Presentations (Group Papers due)
11	Group Presentations (Group Papers due)
12	Individual Topics Selection
13	Fieldwork and Individual Consultations
14	Submission of Research Plan including Bibliography for Individual Report
15	Fieldwork and Individual Consultations
16	Work in Progress Oral Presentations

### 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to write and speak in English.

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, group work, class participation and written assignments.

### 【テキスト】

No Text

### 【参考文献】

Students should be prepared to use the APA Publication Manual style sheet examples.

## 専門演習 I

担当教員 松田 節子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

この演習と後期の専門演習Ⅱでは、バイリンガル教育とバイリンガリズムについて学際的な見地から広範な話題を取り上げる。主な話題は、バイリンガル社会における個人的・社会的概念、子どもの発達上の問題、バイリンガル教育の現状と課題、教室環境での第二言語習得・教授の問題、バイリンガル教育に関わる言語政策と多文化政策などである。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	バイリンガリズムの定義と区別について
3	バイリンガルの測定について
4	社会における言語について
5	言語の復活と逆転について
6	バイリンガリズムの発達について
7	第二言語習得と第二言語習得理論について
8	バイリンガリズムと知能・思考について
9	バイリンガルにおける認知理論とカリキュラムについて
10	バイリンガル教育の現状について
11	教室での第二言語学習について
12	カナダのイマージョン教育について
13	バイリンガリズムの政治について
14	多文化主義と反人種差別について
15	まとめー1
16	まとめー2

### 【履修上の注意事項】

学生のプレゼンテーションおよびディスカッションを中心とした講義形式となるので、積極的な姿勢で講義に参加して欲しい。

### 【評価方法】

出席率、発表内容・態度、ディスカッションへの貢献度、課題などを評価の対象とする。

### 【テキスト】

コリン・ペーカー 『バイリンガル教育と第二言語習得』（岡秀夫訳）大修館書店 （予定）

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 専門演習 I

担当教員 西原 幹子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

「ブルータスおまえもか」というフレーズで有名なシェイクスピアのローマ劇 Julius Caesar 『ジュリアス・シーザー』を読みます。劇中の登場人物がどのように葛藤し決断するのかを読み解きながら、この劇の書かれた当時のイギリスの文化や時代背景についても学んでいきます。

## 【授業の展開計画】

場面全体の流れをつかむために訳本やビデオを参考にしながら、重要なセリフに関しては原文を精読する。いくつかのグループに分かれ、毎週担当を決めて発表してもらう。

## 【履修上の注意事項】

意欲的な参加が求められる。

## 【評価方法】

授業への貢献度、発表の内容、学期末のレポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

『ジュリアス・シーザー』小田島雄志訳（白水社）  
The Riverside Shakespeare (Houghton Mifflin Co.)

## 【参考文献】

Julius Caesar 大場建治注釈（大修館）  
『シェイクスピア大辞典』荒井良雄他編集主幹（日本図書センター）

## 専門演習 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。“I’m loving it.”はなぜ進行形で表現出来るのか。“psychology”の“p”はなぜ発音されないのか。日本語では家畜名「豚」に「肉」を付けるだけで食肉の「豚肉」になるのに、英語では“pig”を“pork”と表現し、“pig meat”と普通なぜ表現しないのか。“look”は視線を向けて見るはずなのに、“He looks happy.”と「...のように見える」といった意味になるのは?なぜ、“He sees happy.”と言えないのか。これらの疑問を解明しながら、英語全般に関する知識を深めます。

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な事由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

## 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 疑問解明度
- ④ 質疑応答・全体討論
- ⑤ task 評点
- ⑥ 受講姿勢

## 【テキスト】

講義内で適宜配布します。

## 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

日本語教育を含めさまざまなテーマに関する論文を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジュメを作成し発表する。その後、個人またはグループでテーマの設定、資料収集、調査、分析、考察、発表など一連の研究のプロセスを体験することにより、卒業論文の作成を行うための基本的な知識、技術を身に付ける。

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

## 【テキスト】

テキストはプリント教材を準備する。

## 【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講義では、認知言語学の立場から日本語と英語を比較検討する。認知言語学という概念が導入された80年代には、理論体系はもとより方向付けも不確かであった。しかし、近年、他分野との共同研究などが急速に進み、科学的根拠がより明確にされてきている。外国語教育へも多くの示唆を与えており、もはや理論・教育・コミュニケーションの枠を超えた学際的な重要性を持つに至っている。将来も何らかの形で外国語に接するであろう本学科の学生にとって、認知言語学の基本的な考え方の理解は必須事項とも言える。

### 【授業の展開計画】

グループ発表を毎回行う。また、4年次の卒業論文に向けて、文章作成の基本事項を再確認する作業も行う。

### 【履修上の注意事項】

特になし。場合によっては、ノート型パソコンを使用するかもしれませんが現時点では未定です。

### 【評価方法】

①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度

### 【テキスト】

現在選定中につきTBA。開講時に指示します。尚、図書館の「指定図書」も随時参考にして下さい。

### 【参考文献】

アリス・ダイグナン 2010『コーパスを活用した認知言語学』東京：大修館書店。¥2,600+税  
萩山洋介 2010『認知言語学入門』東京：研究社。¥1,700+税



## 専門演習Ⅱ

担当教員 西原 幹子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

前期に引き続き、シェイクスピアの作品とその時代背景について学びます。後期はシェイクスピアの喜劇 Merchant of Venice『ヴェニスの商人』を読みます。

### 【授業の展開計画】

場面全体の流れをつかむために訳本やビデオを参考にしながら、重要なセリフに関しては原文を精読する。いくつかのグループに分かれ、毎週担当を決めて発表してもらう。

### 【履修上の注意事項】

意欲的な参加が求められる。

### 【評価方法】

授業への貢献度、発表の内容、学期末のレポートを総合して評価する。

### 【テキスト】

初回の講義で指示する。

### 【参考文献】

講義のなかで紹介する。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 松田 節子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

バイリンガル教育とバイリンガリズムについて前期で学んだことを基に、この演習では主に日本国内のバイリンガル教育（とくに、イマージョン教育）の現状と課題について取り上げる。

### 【授業の展開計画】

バイリンガル教育とバイリンガリズムについて前期で学んだことをさらに発展させる。グループ発表形式を取るが、グループごとに日本国内のバイリンガル教育について実例を調べ、発表する。発表順序、発表内容が決まったところで各週の展開計画を配布する。

### 【履修上の注意事項】

前期の専門演習Ⅰ同様、毎回積極的な姿勢でクラスに臨んで欲しい。

### 【評価方法】

出席率、発表内容・態度、ディスカッションへの貢献度、課題などを評価の対象とする。

### 【テキスト】

必要に応じて資料などを配布する。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

This course is a continuation of Third Year Seminar I. Students will complete their research projects and make oral presentations based on those projects.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Fieldwork and Individual Consultations
3	Submission of Introduction and Body
4	Return of Introduction and Body
5	Submission of Full First Drafts
6	Return of First Drafts
7	Fieldwork and Individual Consultations
8	Submission of Second Drafts
9	Return of Drafts
10	Individual Consultations
11	Deadline for Final Drafts
12	Preparations for Oral Presentations
13	Oral Presentations
14	Oral Presentations
15	Oral Presentations
16	Oral Presentations

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on their attendance, ability to meet deadlines, research paper, and oral presentation.

### 【テキスト】

There is no text for this class.

### 【参考文献】

APA Publication Manual

## 専門演習Ⅱ

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。例えば、動詞“go”の活用形は“go, went, gone”ですが、過去形の“went”だけ形が大きく違うのはなぜ? “Do you know him?”といった簡単な言い方があるのに、“Do you know who he is?”といった言い方をする/出来るのはなぜ? “I think that 文.”を“I think 文.”と“that”を省いて表現するのはなぜ? “play baseball”なのに“play the violin”とするのは? そもそも、大文字と小文字があるのは? これらの疑問を解明しながら、英語全般に関する理解を深めていきます。

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

## 【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② presentation
- ③ 疑問解明度
- ④ 質疑応答・全体討論
- ⑤ task 評点
- ⑥ 受講姿勢

## 【テキスト】

講義内で適宜配布します。

## 【参考文献】

講義内で適宜配布または連絡します。

## 早期英語教育

担当教員 津波 聡

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

第2言語習得の理論や事例を基に、早期英語教育の概要を学びます。又、日本の早期英語教育、特に小学校英語教育の現状や課題について学習します。

### 【授業の展開計画】

前半はグループ発表やディスカッションを通して第二言語習得や早期英語教育について学習し、後半は小学校英語の現状や課題、基本的な指導技術についてワークショップ形式で学習し、グループ単位の模擬授業を行います。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 座席はグループごとに座る
- (2) 無断欠席・遅刻をしない  
(遅刻2回で欠席1回と見なします。1/3以上欠席の場合単位は認められません。)
- (3) グループ発表、ワークショップの前に課題図書を熟読しておく
- (4) 辞書持参

### 【評価方法】

- (1) 授業態度、クイズ、課題（グループ発表、ブックリポート）を総合的に評価します。

### 【テキスト】

講義の中で課題図書一覧を配布します

### 【参考文献】

講義の中で適宜紹介します。

## 卒業論文 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

卒業論文作成への道筋を順を追って解説します。Title (題目) 設定に始まり, Abstract (要旨), Introduction (緒言), Method (方法: 被験者, 手順), Results (結果), Discussion (考察), Conclusion (結論), References (参考文献), Appendixes (補遺) に及びます。英語に関する topic であれば原則 acceptable です。

## 【授業の展開計画】

4月 textbook 第1-2章 discussions  
5月 textboo 第3-5章 discussions  
6月 textboo 第6-8章 discussions  
7月 outline 及び reference list 提出  
(8-9月 個人夏季課題: 先行文献研究)

## 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

## 【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② 発表
- ③ 質疑応答
- ④ 課題
- ⑤ 受講姿勢
- ⑥ Outline

## 【テキスト】

講義内で連絡します。

## 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 卒業論文 I

担当教員 津波 聡

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

第二言語習得、英語教育に関する論文の書き方を学ぶとともに、テーマ設定、研究計画の作成を前期の目標とします。

### 【授業の展開計画】

4月～5月 論文の書き方について（テキスト）、先行研究・関連著書を読み要約を作成

6月～7月 テーマを絞り込み、リサーチプランを作成する

8月～9月 リサーチプランを基にデータ・情報収集、参考文献の整理し、ファーストドラフトを作成する

### 【履修上の注意事項】

- (1) 提出期限を厳守すること
- (2) 遅刻、無断欠席をしないこと

### 【評価方法】

出席率、提出物、発表を総合的に評価します。

### 【テキスト】

授業の中で連絡します。

### 【参考文献】

授業の中で紹介します。

## 卒業論文 I

担当教員 山本 直子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

この授業は、各自の興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、それについて調査・研究を行い、大学での学習の集大成となる卒業論文を書くことを目的とする。テーマについては、英語圏の文化や文学などに関わる、英米言語文化学科にふさわしいものを選ぶことが望ましい。論文を書く上で必要となる作業やプロセスを確認し、テーマを設定し、大まかなアウトラインを完成することが前期の目標である。

### 【授業の展開計画】

第1週

オリエンテーション

第2週～5週

論文の書き方（テーマ設定、資料収集、アウトラインの作成、論文の体裁など）について学ぶ

第6週～13週

個人発表（テーマ発表及び文献紹介）

第14週～16週

アウトライン作成及び個人指導

### 【履修上の注意事項】

- 1) 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにする。
- 2) 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
- 3) 提出課題の締め切りは厳守する。
- 4) イギリス文化やイギリス文学について卒論を書く学生の履修が望ましい。

### 【評価方法】

出席・授業参加10%、発表30%、提出課題60%

### 【テキスト】

泉忠司『論文&レポートの書き方』（青春出版社）

### 【参考文献】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。



## 卒業論文 I

担当教員 新垣 實

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基礎演習I~IV・専門演習I~IVで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。

### 【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 卒論とは・卒論のテーマ設定
- 第5週 卒論を書くには（1）
- 第6週 卒論を書くには（2）
- 第7週 卒論の形式・卒論テーマ発表
- 第8週 卒論資料検索について
- 第9週 卒論資料収集について
- 第10週 卒論資料集経過発表
- 第11週 資料収集
- 第12週 資料収集
- 第13週 卒論概略作成
- 第14週 卒論概略作成
- 第15週 卒論概略発表
- 第16週 まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること

### 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

### 【テキスト】

プリンと教材を準備する。

### 【参考文献】

参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。

## 卒業論文 I

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

This class is intended to enable students to make substantial progress towards completing their graduation thesis. Research topics will be chosen by students themselves but they are encouraged to write about areas in which the teacher has particular research interests, especially social, linguistic and cultural issues in local, national and global contexts where these can work for or against promoting equal rights and social justice.

### 【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will work on a research proposal, during which other scholars, members of the public and other academic resources may be identified. By the end of the term, students will be expected to have completed an initial draft, and will be expected to make an initial oral report on their research.

### 【履修上の注意事項】

While a degree of flexibility is possible in oral presentations, written work can only be accepted in English.

### 【評価方法】

Evaluation will be based on students' accomplishment of the tasks outlined above, as well as on regular attendance and communication with the teacher.

### 【テキスト】

Students will be expected to draw on a range of resources which could include, but is not restricted to, books, internet sites and other media, interviews and questionnaires.

### 【参考文献】

## 卒業論文 I

担当教員 李 イニッド

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

大学生生活の集大成として、各自が設定したテーマに沿って、学術論文作成の基本を学びながら、オリジナルな論文に仕上げることが目指す。対象分野は、言語学や、外国語教育、コミュニケーション、異文化などである。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	テーマ設定
3	調査方法
4	文献収集と整理
5	参考文献の引用
6	データ分析と考察
7	アウトラインの作成・提出
8	参考資料リストの作成・提出
9	論文の構成 (1)
10	” (2)
11	” (3)
12	論文執筆・個別指導 (1)
13	” (2)
14	” (3)
15	口頭発表・草稿提出 (1)
16	” (2)

## 【履修上の注意事項】

特になし。

## 【評価方法】

出席・授業参加態度 (50%)、課題・口頭発表 (50%)

## 【テキスト】

講義内で連絡する。

## 【参考文献】

個別テーマに応じて適宜配布または紹介する。

## 卒業論文 I

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

アメリカ文学一般、及びアメリカの文化に関する論文を書くことを目指す。

## 【授業の展開計画】

前半は、論文の書き方についてのテキストを読み、論文のテーマ、本論の構成、注や参考文献の使い方など、論文執筆のための必須事項を学ぶ。

後半から夏期休暇中にかけては、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行う。

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

授業への積極的な参加、テーマ・アウトラインの進捗状況により評価する。

## 【テキスト】

『卒論を書こう』 榎木伸明、三修社

## 【参考文献】

『知的生産の技術』梅棹忠夫、岩波新書、 『レポートの組み立て方』木下是雄、ちくまライブラリー  
『知の技法』小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会 その他、適宜紹介する。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 新垣 實

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基礎演習Ⅰ～Ⅳ・専門演習Ⅰ～Ⅳで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。

### 【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒論第1回中間発表
- 3回 卒論第1回中間発表
- 4回 卒論作成
- 5回 卒論作成
- 6回 卒論作成
- 7回 卒論第2回中間発表
- 8回 卒論第2回中間発表
- 9回 卒論作成
- 10回 卒論作成
- 11回 卒論作成
- 12回 卒論発表
- 13回 卒論発表
- 14回 卒論発表
- 15回 卒論発表
- 16回 まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること

### 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

### 【テキスト】

プリンと教材を準備する。

### 【参考文献】

参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

アメリカ文学一般、及びアメリカ文化に関する論文を書くことを目指す。

## 【授業の展開計画】

夏期休暇中までに、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行い、10月・11月に中間発表を行う。12月下旬に第一稿、1月中旬に第二稿を提出し、2月に「卒業論文集」の印刷・製本の作業を行う。

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

原則として、完成論文の提出者には「優」を与えるが、中間発表、授業への積極的な参加などに関して著しい問題があれば、その他の評価もあり得る。

## 【テキスト】

『卒論を書こう』 榎木伸明、三修社

## 【参考文献】

『知的生産の技術』 梅棹忠夫、岩波新書、 『レポートの組み立て方』 木下是雄、ちくまライブラリー  
『知の技法』 小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会 その他、適宜紹介する。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 野口 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

前期の研究課題設定及び outline と資料収集を基に、卒論を完成させます。進捗状況を定期的に発表し、達成度に応じて個別指導を行います。また、卒論中間発表を行い、inter-class での情報交換や建設的な批評を仕上げに生かします。draft 提出1ヶ月前からは、日本語の文章表現も検討します。卒論提出後には発表会を行い、口頭発表技能を培うと共に、critique を今後の研究・教育に繋げます。

### 【授業の展開計画】

10月	卒論中間発表	(10月中または下旬予定)
11月	data collection 及び polishing up	
12月	文章表現推敲及び draft 提出	(12/20 2:40 PM)
1月	卒論最終原稿提出	(1/31 2:40 PM)
2月	卒論発表会	(2月初旬予定)

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② 発表
- ③ 質疑応答
- ④ 課題
- ⑤ 受講姿勢
- ⑥ 卒論

### 【テキスト】

講義内で適宜配布します。

### 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 山本 直子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

この授業では、前期の授業で学んだことに基づいて卒業論文を完成させることを目的とする。受講者は夏期休暇中に書いた論文の内容についてクラスで発表する。発表についてクラスで討議し、各自の課題や問題点を検証する。クラス討議や教員の指導を踏まえた上で、受講者は論文を加筆・修正し、より良いものに仕上げる。

### 【授業の展開計画】

第1週  
オリエンテーション

第2週～8週  
個人発表（論文について）、発表についての討議

第9週～12週  
個人指導、論文の加筆・修正、論文提出

第13週～16週  
論文の手直し、論文の最終原稿提出

### 【履修上の注意事項】

- 1) 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにする。
- 2) 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
- 3) 論文の提出締め切りは厳守する。
- 4) イギリス文化やイギリス文学について卒論を書く学生の履修が望ましい。

### 【評価方法】

出席・授業参加10%、発表20%、論文70%

### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

### 【参考文献】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。



## 卒業論文Ⅱ

担当教員 津波 聡

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

興味のあるテーマについて、調査・研究した内容を4年間の集大成としてまとめ上げることを目標とします。その過程で、書くこと話すことの技能向上を目指します。

### 【授業の展開計画】

10月	中間発表会
11月～12月	セカンドドラフト作成
12月末	セカンドドラフト提出
1月	ファイナルドラフト作成
1月末	ファイナルドラフト提出
2月	発表会

### 【履修上の注意事項】

- (1) 提出期限厳守
- (2) 遅刻、無断欠席をしない

### 【評価方法】

出席率、提出物、発表を総合的に評価します。

### 【テキスト】

授業の中で連絡します。

### 【参考文献】

授業の中で紹介します。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

This class is intended to enable students to complete their graduation thesis, and to use this achievement as a means to consider their potential contribution to society after graduating. As well as submitting a graduation thesis, through group work and presentations, the class aims to facilitate communication about important issues and create lasting friendships.

### 【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will work on refining drafts of their theses, and make a final presentation sharing the results of their work with the class.

### 【履修上の注意事項】

While a degree of flexibility is possible in oral presentations, written work can only be accepted in English.

### 【評価方法】

Evaluation will be based on students' accomplishment of the tasks outlined above, as well as on regular attendance and communication with the teacher.

### 【テキスト】

Students will be expected to draw on a range of sources which could include, but is not restricted to, books, internet sites and other media, interviews and questionnaires.

### 【参考文献】

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 李 イニッド

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

大学生活の集大成として、各自が設定したテーマに沿って、学術論文作成の基本を学びながら、オリジナルな論文に仕上げることがを目指す。対象分野は、言語学や、外国語教育、コミュニケーション、異文化などである。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	中間報告 (1)
3	” (2)
4	論文執筆・個別指導 (1)
5	” (2)
6	” (3)
7	” (4)
8	論文仮提出
9	手直し
10	論文再提出
11	手直し
12	論文本提出
13	口頭発表・質疑応答 (1)
14	” (2)
15	” (3)
16	” (4)

## 【履修上の注意事項】

特になし。

## 【評価方法】

出席・授業参加態度 (50%)、口頭発表・卒業論文 (50%)

## 【テキスト】

講義内で連絡する。

## 【参考文献】

個別テーマに応じて配布または紹介する。

## 第2言語習得論

担当教員 松田 節子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

子どもの第一言語習得（母語習得）はほとんど例外なくうまく行くのに、思春期以降の第二言語習得（英語習得）はなぜ多くの場合うまく行かないのか。第二言語習得には決まった順序があるのか。やる気があれば英語学習成功者になれるのか。聞くだけで英語ができるようになるのか。このような素朴な疑問について、第二言語習得の分野で分かってきたことから答えを探る。

### 【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと。（遅刻3回で1回の欠席とみなす。）
- (2) 指定された箇所を熟読して、必ず質問や意見をもって授業に臨むこと。
- (3) 積極的に授業に参加すること。

### 【評価方法】

出席、課題、プレゼンテーション、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業開始時に指示する。

### 【参考文献】

適宜配布する。

## Discussion Skills

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

The aim of this course is continue to develop communicative skills in English, with emphasis upon public discussion and various other types of social interaction all in the target language.

### 【授業の展開計画】

Building upon skills developed in Oral Communication I, II, and III, this course aims to develop a wider range of communicative skills by using English in simulations of real-life events. Reading skills are essential in the preparation phase of each simulation. Communication skills are practiced in purposeful, task-based activities involving private, semi-public, and public situations utilizing face-to-face interaction, written communication, and CMC (Computer Mediated Communication). Students will also learn to assess their own language learning progress using a personal portfolio.

### 【履修上の注意事項】

Each simulation will be extensively evaluated both orally, and in writing. Class participation counts for 70% of the final grade.

### 【評価方法】

Each simulation will be extensively evaluated both orally, and in writing. Class participation counts for 70% of the final grade. A listening dictation quiz, writing assignments, and interviews at the end of the course will count for 30%. Regular attendance is expected. Keep in mind that active participation in the class is essential for a good grade.

### 【テキスト】

There is no designated textbook, but students are expected to search current newspapers and magazines for information. Each student must also join the class LMS course.

### 【参考文献】

- \* English-English, English-Japanese and Japanese-English dictionaries
- \* local and national newspapers
- \* electronic media (TV, radio, Internet, etc.)

## Discussion Skills

担当教員 ショーン ターバート

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

This class is designed to help students improve their ability to communicate using English. The class will include a variety of pair / group / class activities to develop communication skills. Topics will include: expressing opinions, giving presentations (individual and group) and participating in group discussions.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

Your final grade will be based on attendance, participation, pair / group work, presentations (individual and group) and homework assignments related to class activities. Students will be expected to speak in English as much as possible in class.

### 【テキスト】

There is no assigned textbook for this class. The instructor will provide materials to be used in class.

### 【参考文献】

## Debate

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

The aim of this course is to introduce students to the theory and practice of debate, with an emphasis on actual debating. Students will also receive some guidance in public speaking, especially as it pertains to debate.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, self-introductions
2	Differences between debate and conversation, types of debate
3	The value of debate, debate and culture, developing a critical attitude
4	Principles of debate, preparing for a debate, outlining
5	Basics of public speaking
6	Debate 1 (easy topic)
7	Introduction to policy debate
8	Debate preparation in groups
9	Debate preparation in groups
10	Debate 2 Resolved: That English Should be Taught in All Japanese Elementary Schools
11	Evaluation of Debate 2, choosing topic for final debate
12	Debate preparation in groups
13	Debate preparation in groups
14	Debate rehearsal and critique
15	Debate 3: Formal Policy Debate on a Student-Chosen Topic
16	

## 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to spend most of each period speaking in English. Debate speeches should neither be memorized nor read, but they should be well-rehearsed. Students may use note cards during their speeches, but they should be able to maintain eye contact with the audience. Let's have fun debating!

## 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, short tests, self-evaluations, homework (research and debate preparation), notes taken during class, and performance in debates. Students must attend at least 70% of all classes to receive a passing grade. DO NOT BE ABSENT FOR ACTUAL DEBATES.

## 【テキスト】

No textbook is required. However, students will be required to bring an electronic dictionary and a B5 notebook to every class. Students are expected to take extensive notes during class.

## 【参考文献】

None.

## 同時通訳

担当教員 島袋 美智子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

同時通訳の魅力、通訳者の心構え、準備などについて述べ、訓練メニューの説明を行います。リスニング強化、英語要約を行う。音読重視。逐次通訳及び同じテキストを用いてサイトラ、同時通訳の基礎訓練を行う。ペアワークについて学ぶ。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	通訳について、訓練メニュー、単語増強の必要性、リスニング強化について
2	テキスト1：シャドーイング、英語要約、逐次通訳、ノートテイキング
3	テキスト2：英語のインタビューを聞いて英語で要約を行う。新聞英語のサイトラを行う。
4	テキスト2：同じテキストでメモ、逐次通訳を行う。プロの通訳をテープやDVDで聞く。
5	テキスト2：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、ペアでプレゼンを行う。
6	テキスト3：数字の英語を聞いて通訳用メモを取り、日本語でアウトプットする。
7	テキスト4：映画の記者会見とプロの逐次通訳を聞く。通訳分析を行う（レポート提出用）
8	テキスト4：「通訳の極意」から日本語→英語へのサイトラ・トランスレーションの練習
9	テキスト5：日本語のスピーチを聞いて英語での要約を行う。逐次、同時通訳の訓練を行う。
10	テキスト5：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼンを行う（ペアで）
11	テキスト6：英語のスピーチを聞いて要約をする。メモ、逐次通訳を行う。
12	テキスト7：日本語のエッセイを聞いて英語で要約、メモ取りのプレゼンを行い、逐次通訳。
13	テキスト7：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼン（ペアワーク）
14	期末テストのリハーサル：PC録音のため、一度リハーサルを行う。
15	期末テストは通訳実技テストを録音する（同時通訳1つ、サイトラ・トランスレーション1つ）
16	

### 【履修上の注意事項】

ラボ教室使用予定。スピーチ、音声録音用の記録メディア（USB、CD-ROM）を常に携帯して下さい。クラス毎に課題があり、リスニング、シャドーイング、サイトラ・トランスレーションなどの予習が必要と考えて下さい。出席を重視しますのでなるべく休まないようにして下さい。

### 【評価方法】

1. 学期の終了時に通訳実技テストを行う（成績は5段階で評価。3以上が講座を修了することができる）
2. 出席に関しては全クラスのうち三分の二以上を修了の条件とする。出席を重視する。
3. 課題として「プロ通訳パフォーマンス分析」のレポートを提出する。

### 【テキスト】

1. 「通訳の極意」著者：小林敦夫（こばやしあつお）出版社：（株）南雲堂フェニックス 03-3202-5625
2. 講師の作成する自主テキスト（新聞記事、online記事、スピーチ及びインタビューテキスト、DVD など）

### 【参考文献】

1. 「トレンド日米表現辞典」小学館 03-3230-5745
2. 電子辞書（少なくとも20万語以上の英語辞書、広辞苑）
3. 通訳翻訳ジャーナル
4. 英語字幕つきのシネマ
5. 自己作成単語増強ノート



## 日英語比較研究

担当教員 松田 節子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この講義では日本語と英語の比較を行い、日本語らしさ、英語らしさの要因を整理する。整理の方法としては、日本人学習者が英語を習得する際に困難を覚える問題点を取り出し、構文、意味、音韻、発想などの各見地から英語との比較研究を試み、それらの困難点を克服する方法を探る。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業内容の紹介とグループ編成
2	グループごとに英語の学習困難点を挙げ、その一覧表を作成、提出する。
3	提出した問題点についてグループで検討を加える。グループ発表予定を配布。
4	第1グループと第2グループの発表と質疑応答
5	第3グループと第4グループの発表と質疑応答
6	問題点の整理ーその1
7	第5グループと第6グループの発表と質疑応答
8	第7グループと第8グループの発表と質疑応答
9	問題点の整理ーその2
10	第9グループと第10グループの発表と質疑応答
11	第11グループと第12グループの発表と質疑応答
12	問題点の整理ーその3
13	第1～第6グループの補足説明
14	第7～第12グループの補足説明
15	全体のまとめーその1
16	全体のまとめーその2

## 【履修上の注意事項】

この科目の登録を希望する者は、できれば、「英語学概論」、「英語学特殊講義Ⅰ」、「日本語学概論」、「日本現代語文法Ⅰ・Ⅱ」のいずれかを履修済みであることが望ましい。英語教育、日本語教育に関心のある者だけでなく、日本語との比較の視点から自己の英語学習を効果的に進めたいと考えている者にも受講を勧めたい。

## 【評価方法】

出席、授業への貢献度、課題研究の成果と発表態度・内容、質疑に対する応答の内容などを評価の対象とする。

## 【テキスト】

選定中（講義開始時に指定する）

## 【参考文献】

適宜紹介する。

## 日本語現代文法 I

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

外国語の理解や習得に長けていても、日本語に関して説明に窮する場合も多々ある。本講では日本語の基礎的な文法事項を取り扱いながら、日本人が見落としがちな日本語の特性、または、外国人が間違え易い日本語の特徴を学んでゆく。外国語の視点から日本語を再考する。

### 【授業の展開計画】

第1-2週： 品詞と語の構造  
第3-4週： 動詞  
第4-5週： 形容詞  
第6-7週： 判定詞  
第8-9週： 助動詞  
第10/11週： 中間テスト  
第12/13週： 名詞  
第14週： 指示詞  
第15週： その他  
第16週： 期末試験

\*\*\* 選定するテキストにより、内容が多少変更する場合もある \*\*\*

### 【履修上の注意事項】

日本語教員免許取得を目指す学生には必修科目であり一年次からの履修となる。履修手続きに漏れのないように確認すること。尚、受講生の理解度に合わせて授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。

### 【評価方法】

①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度

### 【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

### 【参考文献】

荒川洋平 2009 『日本語という外国語』 東京：講談社現代新書 ¥740 (税別).  
森山卓郎 (編) 2009 『国語からはじめる外国語活動』 東京：慶応義塾大学出版会. ¥2,310.

## 日本語現代文法Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

前期で学習した事項を踏まえ文法事項を更に理解してゆく。後期は受講者の理解度を確認するために、グループ作業を行う予定である。項目ごとに担当グループを決めてクラス発表を行う。授業では発表の補足あるいは更に理解を深めるための指導を行う。

### 【授業の展開計画】

第1-2週： 助詞  
第3-4週： 構文  
第4-5週： ボイス  
第6-7週： テンス・アスペクト  
第8-9週： ムード  
第10/11週： 単文・複文  
第12/13週： 接続表現  
第14週： その他  
第15週： 総復習  
第16週： 試験

\*\*\* 選定するテキストにより、内容が多少変更する場合もある \*\*\*

### 【履修上の注意事項】

日本語を含めた語学教員にはプレゼンテーション能力が要求されます。下調べをしっかりと行い、発表時にはハンドアウトも用意すること。尚、受講生の理解度に合わせて授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。

### 【評価方法】

①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度 ⑤発表内容

### 【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

### 【参考文献】

荒川洋平 2007『続・もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』スリーエーネットワーク ¥1,260.  
荒川洋平・森山新 2009『日本語教師のための応用認知言語学—わかる!!』凡人社 ¥1,500 (税別)

## 日本語表現法演習 I

担当教員 元山 由美子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。

前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに、客観的に見る力を養います。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 日本語表現法演習 I

担当教員 一ケリ 綾子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。

前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに、客観的に見る力を養います。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 元山 由美子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、書く、調べる、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏まえ、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 一ケリ 綾子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、書く、調べる、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏まえ、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## Public Speaking

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

The aim of this course is to introduce students to the basics of public speaking, with an emphasis on speaking extemporaneously. Students will receive training and instruction in delivery, speech preparation, audience analysis, outlining a speech, gesturing, using props and visual aids, researching a topic, and critiquing a speech.

## 【授業の展開計画】

Working in groups of six or seven, students will be required to give four speeches: a self-introduction speech, an informative speech, and a persuasive speech. In addition, students will be required to upgrade (using visual aids and other methods) one speech that they will then have to deliver as a final exam. One or two speeches may be taped.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, overview of public speaking, self-introductions
2	Basics of the speechmaking process, delivering your speech
3	SELF-INTRODUCTION SPEECHES and discussion of speeches
4	Preparing your speech: choosing a topic, analyzing the audience, and gathering information
5	Preparing your speech: organizing your speech, writing effective introductions
6	INFORMATIVE SPEECHES
7	Discussion and evaluation of speeches
8	Capturing and maintaining audience attention
9	Organizing a persuasive speech
10	Persuading an audience
11	PERSUASIVE SPEECHES
12	Discussion and evaluation of speeches
13	Using props and visual aids
14	Using Power Point effectively
15	FINAL SPEECHES
16	FINAL SPEECHES

## 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to spend most of each period speaking in English. I expect students to deliver all of their speeches extemporaneously, which means that speeches should be well-rehearsed. Students may use note cards during their speeches, but they should be able to maintain eye contact with the audience.

## 【評価方法】

Grades for speeches will be assigned based on student evaluations, submitted notes, and teacher observation. Grade percentages will be assigned as follows: self-introduction speech (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%), final exam (30%), and evaluation of other speeches (10%).

## 【テキスト】

No textbook is required; however, students should bring an electronic dictionary and B5 notebook to every class.

## 【参考文献】

Numerous handouts will be distributed during class.



## ビジネス英語

担当教員 森山 憲一

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

この講座は受講する学生が将来において、英語を必要とする企業等に就職することを想定して、英文履歴書の書き方を始めとして、業務の種々の場面で要求されるコレスポンドの一般的な形式、文章の構成、用語、適切な表現等を手紙、ファックス、e-メール、電話等の伝達手段にあわせて作成し、演習します。その後、企業活動の重要な分野である取引関係の英語に重点をおいて、市場調査、引き合い、注文、決済等に関連する英語表現を学習します。（続きは展開計画へ）

### 【授業の展開計画】

（授業のねらい続き）

ビジネス英語は要件を明確かつ効果的に相手に伝えることが要求されます。そのため、この講義においては一つのことについて多彩な表現ができるように演習します。また、具体的な学習方法については、それぞれのトピックにおけるモデルレターを中心に問題形式で進めるものとします。

#### 授業の展開計画

この授業は、ビジネス英語を初めて学ぶ学生を対象に進められます。内容は、次の展開計画に沿って、通信文を中心に会話に適した表現も学習するものとします。

- (1) 講義内容および授業の進め方の説明
- (2) 基礎的ビジネスレターの形式、構成、内容等の学習
- (3) ファックス、電子メール及び電話による基礎的ビジネスコミュニケーションの学習
- (4) 電話、手紙による面会の申し入れ、ホテルの予約の入れ方の学習
- (5) オフィスの移転、支店開設の通知文書作成の学習
- (6) アンケートの回答、資料の送付依頼文書作成の学習
- (7) レセプションへの招待状、慶弔に関する文書作成の学習
- (8) 会議の通知、議事録作成の学習
- (9) 社内研修の案内（文書、電話）、社外研修の報告のやり方の学習
- (10) 日程の中間報告（電話、文書）の形式、構成、内容等の学習
- (11) カタログ送付依頼、製品に関する問い合わせ等引き合いに関するコミュニケーション（電話、文書）の学習
- (12) 製品の注文、代金の回収、クレーム等に関するコミュニケーションの学習
- (13) 英文履歴書の作成、応募、推薦状等雇用に関する文書作成及び面接（CD使用）の学習
- (14) ビジネスレターの形式の学習
- (15) ビジネスコミュニケーション全般のまとめ。 16回目にテストを行います。

### 【履修上の注意事項】

ビジネス英語は、場面の一つ一つを積み上げて全体の知識を形成することが重要なので、欠席や遅刻をしないように心がけてください。

### 【評価方法】

- (1) 成績は100点満点としその評価は本学の評価基準によるものとします。
- (2) 成績の評価は、60点以上を合格、60点未満を不合格とし、次の基準に従って表示します。
 

優	……	80点以上	良	……	70点以上80点未満
可	……	60点以上70点未満	不可	……	60点未満

### 【テキスト】

(株)南雲堂 豊田暁著「Essentials of Global Business English」

### 【参考文献】

## Pronunciation Workshop

担当教員 李 イニッド

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

This course helps students understand English pronunciation and overcome the areas they find most challenging. Specifically, students will learn how to master individual sounds, word stress, rhythm, connected speech, reduction, phrasing, and intonation.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Consonants (1)
3	Consonants (2)
4	Consonants (3)
5	Review; Quiz I
6	Vowels (1)
7	Vowels (2)
8	Vowels (3)
9	Review; Quiz II
10	Accent & Rhythm
11	Liasion
12	Reduction
13	Review; Quiz III
14	Phrasing
15	Intonation
16	Review; Quiz IV

## 【履修上の注意事項】

No particular requirements.

## 【評価方法】

Attendance & class participation (50%), Quizzes (50%)

## 【テキスト】

To be announced in class.

## 【参考文献】

## Pronunciation Workshop

担当教員 ーグレイ クウェン ビデオ

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

Develop students understanding of English pronunciation

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Intro
2	unit 1
3	unit 2
4	unit 3
5	unit 4
6	unit 5
7	unit 6
8	unit 7
9	unit 8
10	unit 9
11	unit 10
12	unit 11
13	unit 12
14	unit 13
15	unit 14
16	unit 15

## 【履修上の注意事項】

loosen that tongue. let's get ready to wag!

## 【評価方法】

Class attendance and ACTIVE participation will be paramount.  
Desire to improve and willingness to work will serve you well.

## 【テキスト】

pronunciation in use

## 【参考文献】

N/A

## 翻訳研究

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

このクラスでは、本格的な翻訳を教えるにあたり、特に英文を日本語に翻訳することに重点をおいて行う。また、生徒に翻訳における専門的な知識と、翻訳家に必要とされる技術を学んでもらうことを何よりの目的とする。

### 【授業の展開計画】

自分が翻訳したい資料などを授業に持ってきてもらいたい。学説や、方法論、翻訳に対する信念は向かい合う様々な問題として討論される。

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と方法の説明、翻訳紹介
2	翻訳の種類、依頼者のニーズ、翻訳家の仕事、簡潔な翻訳
3	課題1 レシピ
4	道具、辞書、ウェブサイト、本格構成、TMソフトウェア
5	課題2 運転免許証
6	課題3 ユーモアテキスト
7	課題4 広告テキスト
8	課題5 ビジネス通信
9	課題6 ビジネス通信
10	課題7 文学テキスト
11	課題8 文学テキスト
12	グループ活動 アメリカのテレビ番組を日本語に訳して、日本語の吹き替え版を作ります。
13	グループ活動
14	グループ活動
15	吹き替え版の録音
16	吹き替え版の録音 / 公開

### 【履修上の注意事項】

この講義を受ける受講生には高い英語読解力を期待する。

翻訳の際に翻訳機を使わないこと。翻訳機にかけたものは、盗用とみなす。同様にクラスメートの翻訳を写さないこと。自分で翻訳したことが証明されなければならない。

### 【評価方法】

生徒の評価は、講義での発言や提出物が15%、宿題の課題が35%、最終のグループ発表が25%、最終ノート提出が25%である。受講者は少なくとも75%以上の出席と、欠席の際の補修は完璧に提出しなければならない。

### 【テキスト】

この講義ではテキストは必要ないが、受講生は電子辞書とB5のノートを毎回持ってくる。配布された資料や翻訳する際参考にした資料をコピーして持って来てもらうこともある。

### 【参考文献】